



# HG CYA



HG CYA-JYA 2008 ~衛生編~



◆もくじ◆

・自己紹介 HGCYA-JYA MEMBER	4
・2008年9月 HGCYA-JYA活動目的	8
・活動準備	9
・活動の準備	12
・活動のスケジュール	13

9月8日

・HGCYA-JYA顔合わせ 柳田さんと山口さんのお話	14
・トウルスレン博物館	15
・JVCでの勉強会	16
・JVCレポート	17

9月9日

・ケマラの幼稚園	19
・ケマラの幼稚園	21

9月10日

・ゴミ集積場、JLMM活動地訪問	22
・ゴミ集積場	23
・キリングフィールド	25

9月11日

・ルセイスロッ小学校	26
・ルセイスロッ小学校訪問	28
・クロマー工場	29
・反省会と次の日の準備	30

## 9月12日

・プレクターパウ小学校	31
・プレークタパウ小学校	33
・HGCYA-JYA活動振り返り会	34
・王宮 Royal palace	40
・歓送会	41

## 9月13日

・本当の国際協力	42
・自分にはなにができるのか(青年海外協力隊)	43

## 9月14日

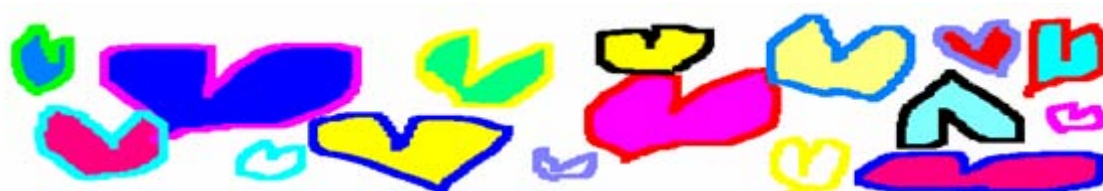
・朝日！！ in アンコールワット！！	44
・清掃活動と感想	44
・シェリアップの清掃活動／折居夫婦・鍵山さんとの朝食	45
・アンコールワット観光	47
・IKTT 蚕祭り	48
・IKTT 前夜祭	49

## 9月15日

・るしなの松本さんのお話を聞いて	50
・松本さんとの昼食会	51
・木のぬくもり！ ニューチャイルドケアセンター訪問	51
・ニューチャイルドケアセンター	52

## 9月16日

・観光、お別れ！	53
・今回の活動を振り返り	54
・編集後記	55





## 自己紹介

### ★HGCYA MEMBER★



こんにちは！私はソバンモニーです。私は 22歳で、今はプノンペンに住んでいます。2007年6月6日に国立経営大学を卒業しました。専門は会計学です。私は毎日RULE（王立法律経済大学）で日本語を勉強しています。でも、まだうまく話せません。暇な時は図書館へ行きます。趣味は小説を読むことです。今回の衛生の活動にHG-CHAJYAみんなで参加してとても楽しかったです。新しい経験を勉強しました。どうもありがとうございます。

僕の名前はフーンといいます。生まれ育ったところはタケオ州のロムデェンという小さな村です。高校までは、この村ですごし、大学からはプノンペンにきました。私のふるさととは小さな村ですが、静かで自然に恵まれた素敵などころです。みなさんも是非一度来てください。大学はプノンペン大学で哲学を勉強しました。今は卒業しました。日本語はCJCC(カンボジア日本人材開発センター)で3年半ぐらい勉強しました。今は、仕事を探しています。皆さんに会えて、日本語でしゃべれてとても嬉しかったです。



私はピッチ・ブントーンと申します。私の趣味は金魚を飼うことです。暇になるといつも本を読みながら、金魚にえさをやります。私はたくさん友達がほしいです。

私はソピアです。今は王立法律経済大学で経済を勉強しています。4年生です。私の趣味は小説を読んで、スポーツをすることです。暇な時、歌を聞いて、絵を書いて、本を読みます。歌の中では日本語の歌と英語の歌が好きです。日本人の学生と一緒に社会にいいことをして嬉しかったです。今度チャンスがあったら、もう一度参加したいです。私にこの参加するチャンスをくれたHG CYA-JYAの皆さんどうもありがとうございました。





私はマンル・レケナーと申します。今、私はRULE（王立法律経済大学）で日本語を勉強しています。PUC（Pannasastra University of Cambodia）で英語を勉強しています。私の学校は家から遠いので、13歳のときから、私は友達と住んでいます。将来私は外国人と働きたいです。また、日本語と英語を使いたいです。

こんにちは！私はソパーネットです。21歳で、カンボジア人でプノンペンに住んでいます。保健科学大学の4年生で医学の勉強をしています。私もRULE（王立法律経済大学）で日本語を卒業しましたが、まだうまく話せません。暇な時は、図書館に行きます。趣味は医学の本とか、漫画の本を読むことです。今回の衛生の活動にHG-CYAJYA みんなで参加してとても楽しかったです。新しい経験を勉強しました。どうもありがとうございます。



私は、クリタです。19歳です。日本語を1年勉強しています。きのこの料理が好きです。妹が一人います。友達がたくさん欲しいです。美容院で働いています。

私はサイです。22歳です。今、私は日本語と英語を勉強しています。暇な時は、雑誌と本を読むのが好きです。プノンペン大学で勉強しています。



こんにちは。私はピサイ。ピサルの姉です。今回みんなと活動を行えてとても楽しかったです。

こんにちは。私はピサル、17歳です。コンポンチャム州で生まれました。この活動で、子ども達に会ったり、日本語をしゃべったりしてとても楽しかったです。またこのような機会がありましたら是非参加させてください。





★HGJYA MEMBER★



田中 百合です。国際協力に関心があり、現在山形大学に在籍中ですが、休学して2008年4月～10月までHGアジア事務所でインターンをさせていただきました。好奇心が強い私は、毎日いろんなびっくりが起こるカンボジアが大好きです☆クメール料理&甘味屋台も大好き☆北海道出身で、小さいときからずっとバレーボールと日本舞踊をやっています。

はじめまして！創価大学1年の木村光一です。創価大学では東南アジア研究会に所属していて、ほのぼのとした研究会ですが、研究となるとガチでやる最高のメンバーと毎日を過ごしています🤪 今回は先輩の誘いがあり、行くしかないだろ！ってことで参加しました。結論としては、ほんとに参加してよかったです🚗 ネット上でしか見ることのできないカンボジアの現状が自分の目を通して見ることができ、本当に勉強になりました。また、いままで遠い存在だったカンボジアという国が身近に感じることができました。ハートオブゴールドの方々をはじめ、お世話になった皆さんに感謝申し上げます。



創価大学経済学部4年の溝渕弘子です。あだ名はヒロです。東南アジア研究会というクラブに3年次まで所属していました。今回の活動に参加して、カンボジアの子どもたちといっぱい触れ合うことができたり、NGOの方々の貴重な話を聞くことができたり、一緒に活動したメンバーと仲良くなることができ、ほんとに参加してよかったです！！

吉田さくらです。創価大学経済学部4年、現在大学を1年休学してカンボジアにクメール語の勉強をしにきました。カンボジアはみんな笑顔が素敵ないい国で、大好きです☆！出身は岐阜県で、好きな果物はバナナです。カンボジアのバナナはとてもおいしいよ～！





こんにちは！！ 拓殖大学国際学部国際学科2年の山室友香です。  
 大学では国際政治を専攻しています!!ゆりりんのおさそいがあるって、  
 今回の活動に参加しました☆国際的な活動に興味があるって、もっとい  
 ろんな体験をしたいなーと日々考えています。カンボジアの子供は  
 かわいい☆

歌って、踊って、笑って...が趣味のあきこです!!宮崎明子☆明治大学  
 ☆文学部☆3年☆海が好きなので、大学ではスキューバダイビングサー  
 クルに所属して、日々青春してます!!基本的におとなしい性格で  
 す。おもしろければ、なんでもあり☆



真々田祥子  
 千葉県の江戸川大学3年生です。性格はマイペースで頑固者、  
 思い立ったらすぐ行動!がモットーです。自慢は好き嫌いがいいこと。と  
 りあえず何でもチャレンジしがります。出来なかつたら諦めます!アジ  
 ア諸国に興味があり、ブローケンイングリッシュを武器に各国を見て回る  
 のが夢です。

東京外国語大学カンボジア語専攻4年井上えりか  
 ただ今プノンペン大学社会学部に留学中  
 カンボジア到着3日目より、ツアー参加  
 カンボジア語は、まだしゃべれない...が  
 カンボジア語でギャグを言うことは大好き  
 最近、しゃべりすぎで口から生まれてきたのではないかと  
 悩むが実は逆子だったため、そんな心配はいらない。



岡本謙吾です。東京のド田舎・八王子出身で、本来は創価大学文学部  
 社会学科4年!!!しかし、休学して2008年4月~12月までプノンペン  
 大学でクメール語を勉強するため、今は語学留学中。カンボジア人の明  
 るい雰囲気と人の好きから、カンボジアに魅了させられた一人であるこ  
 とに間違いはないかな☆自分は国際協力や開発などの大きい分野には、  
 それほど興味はないけど、「この腐った政府のもとで生きるより仕方ない  
 カンボジアの親友のために何かをしたい」とは思っています。



2008年9月 HGCYA-JYA活動目的

田中 百合

☆2008年9月 HGCYA-JYA のテーマ☆

テーマ：健康のため、衛生に注意しよう

- ①衛生的な日常生活
- ②ごみの適切な処理

2006年度HIV/AIDS予防教育の活動で、休憩時間に配ったお菓子の包装やペットボトルを、多くの生徒たちが校庭にポイ捨てる行動が目立ち、環境や衛生への配慮が不十分だったのではないかと、という反省の意見が出ました。そこで今回は、衛生的な生活を送るにはどうしたら良いのか？（自分の衛生）と、ごみを散らかしておくるとどんな悪影響があるのか？（まわりの衛生）の2点をメインに活動を行うことに決めました。

☆活動目的☆

～衛生的な日常生活について～

- 活動のねらい：①子どもたちが衛生的な一日の流れについて知る。  
②子どもたちが、なぜ衛生に注意しないといけないのか、その理由を知る。  
③子どもたちが自分自身の衛生や健康に気をつけることができるようになる。

活動で伝えたいこと：①衛生的な一日の流れと、②衛生に注意しないといけない理由（それらを教えることによって、③子どもたちが自分自身で衛生や健康に気をつけられる事につながってほしい。）

～ごみについて～

- 活動のねらい：①子どもたちがごみを散らかすことによって起こる悪影響を理解する。  
②子どもたちが自分たちの周りを清潔に保てるようになる。  
③子どもたちが、ごみを減らすことについて知る。

活動で伝えたいこと：①ごみの悪影響 ②清潔な環境を保つこと ③ごみの削減について

さらに、このテーマのもと活動してみてメンバーが感じたこと、勉強したこと、活動後も互いの国でできる事などについて最後に振り返りを行うため、日程中メンバーは、これらの点を意識しながら活動に参加しました。



## 活動準備

田中 百合

5月初めから9月にかけて、カンボジア側を中心に、合計12回の活動準備ミーティングを開きました。また HGCYA-JYA 活動日程中にも、9月9日と10日に2回準備の時間を設けました。ミーティングは主にカンボジア側が主体で行われ、日本から参加するメンバーはメールで情報共有し、意見を出しました。

### 《準備①：テーマの決定（5月）》

テーマ：健康のため、衛生に注意しよう

- ①衛生的な日常生活
- ②ごみの適切な処理

2006年度HGCYA-JYA活動の反省点をうけて、今回は、衛生的な生活を送るにはどうしたらよいのか？（自分の衛生）と、ごみを散らかしておくどんな悪影響があるのか？（まわりの衛生）の2点をメインに活動を行うことに決まりました。



### 《準備②：活動場所と日程の決定、（6月前半）》

小学校以外にも、孤児院や村などの候補があったのですが、今回はプノンペン近郊の小学校で活動を行う事に決定しました。日程も今回のテーマに関連のある場所や、HGCYAメンバーがHGJYAに紹介したい場所を中心に考えました。また今回「衛生」というテーマを扱うにあたって、事前知識無しに活動を行うのは良くないという考えから、事前勉強会を行うことに決定しました。

### 《準備③：活動の主な流れの決定、HGJYA募集開始（6月後半）》

小学校での大まかな活動プログラムを決定すると同時に、HGJYA募集を開始しました。

### 《準備④：活動目的の再確認、具体的な活動内容作り、事前勉強会（7月、8月前半）》

プログラムをもとに具体的な活動内容を作るにあたって、私たちの活動目的やねらいが未だに明確ではないことに気付いたため、今回の活動目的を再確認しました。（詳しくは今回のHGCYA-JYA活動目的のページを参照してください。）

そして事前勉強会（CYKの保育園訪問、JVCのDVDを見るなど）も開始し、主にHGで作成支援した小学校保健体育科教師用指導書をもとに活動内容を作っていました。また子どもたちが楽しく学べるよう、ただ説明で終わるのではなく劇やクイズ、紙芝居を交えて説明することに決めました。

#### 《準備⑤：劇やクイズ・紙芝居作り&練習、事前勉強会、物品準備（8月後半、9月）》

劇やクイズ、紙芝居のシナリオ作りや練習を行いました。最初はみんな恥ずかしくてなかなか練習が進みませんでした。チェトラさんの熱い指導のもと、話し方や表現の練習を行いました。また事前勉強会（Rainbow Bridge Project）も行ってHGCSAミーティング内で情報共有しました。必要物品（水、石けん、模造紙など）の買出しも行いました。

#### 《準備⑥：活動日程中の勉強会、詳細決定、物品準備、リハーサル（9月8日～10日）》

いよいよ活動日程がスタートし、HGCSAも参加して勉強会（JVC訪問、Khemara訪問）を行いました。また自己紹介部分の進め方や細かい役割分担など、プログラムの内容全てを振り返り、最終準備を行いました。そして通しのリハーサルで動きを確認しました。

#### 《感想》

今回の活動は、カンボジア側で5月から本格的にミーティングを開催し、みんなで企画を作っていくという初めての試みでした。テーマは「健康のため、衛生に注意しよう！」手洗いや歯磨き、煮沸した水を飲むことなど「自分の衛生：hygiene」と、ゴミはポイポイ散らかすのではなく、きちんと決められた場所に捨てて、清潔な環境を保とうという「まわりの衛生：sanitation」の2本立てで活動は作られていきました。

私は4月からHGアジア事務所でインターンをさせていただいたため、最初から最後までカンボジア側のミーティングに参加することができたのですが、この約半年間で、メンバーの中には様々な変化があったと感じています。

「健康のため、衛生に注意しよう！」というテーマに決定したとき、私は正直不安でした。“衛生”という底なし感満載の問題をどう扱うのか。しかも小学校での活動となると、最低限小学校にご迷惑をかけることのないようなレベルの活動を作らないといけません。しかしミーティングをはじめた初期の頃は、言葉がなかなか通じない、連絡なしにミーティングを休むひとが続出、30分以上遅刻はあたりまえなどなど・・・このままで大丈夫なの！？というのが正直なきもちでした。

しかしミーティングを重ねるごとに、みんなにすこしずつ変化が現れました！しょっちゅう脱線していた話し合いですが、その日決めるべきことについてきちんと確認をしながら、1つ1つ議論ができるようになったり、ミーティングの最後では次週の議題について確認ができるようになったり・・・言葉も日本語、英語、クメール語の3ヶ国語を交えながら、なんとか前よりスムーズに進むようになりました。慣れてきたからなのか、意見もだ

んだん積極的せききよくてきにできるようになった気がします。

そして一番面白いちばんおもしろかった変化へんかは、HGCIYA-JYA メンバー自身じしんが、いままでよりも自分の衛生やまわりの衛生、ごみの削減さくげんなどに気をつけるようになったことです。自分ができない事は他人に教えられないという思いから、例えばみんなで昼食ちゆうしょくをとる前に「あ、手を洗あらいに行かなきゃ！」とみんなが手を洗い始めたり、市場で余分な袋ふくろをもらった時は「あ、この袋断ふくろことわれればよかった・・・」と反省はんせいの気持ちになったり。衛生について子どもに教えるというよりは、わたしたちがこの活動作りを通して逆さかに沢山のことを学ばせてもらっているという事ことを改めて感じました。

活動本番1ヶ月前かつどうほんばん かげつまえくらいからは、毎週長時間まいしゅうちゆうじかんの濃い内容こ ないようのミーティングが続き、また活動日程中にっけいちゆうも遅くまで準備じゆんびにとりかかりました。活動直前ちやくぜんでかなりばたばたしたので、もっと前から計画的に準備けいかくてき じゆんびできればよかったという点など、たくさん反省点はんせいてんはありますが、大変さを感じながらもみんなよく頑張ったと思います。自分の力不足ちからぶそくを痛感して悩むこともありましたが、みんなが協力きょうりやくしてくれたからこそ、充実した活動じゆうじつができたのだと思います。「大変」というのは、自分が「大きく変わる」チャンスということ。今回の活動作りこんかいの経験けいけんが、参加メンバー自身さんか じしんを大きく変えること、成長せいちようさせることにつながってくれたら、本当に嬉しいです。



## 活動の準備

ピッチ・ブントゥーン

ラクロスの活動が終わったあとで、次の活動について考えました。そこで私たちは一緒にミーティングをしました。ミーティングは5月から9月までです。最初のミーティングは1ヶ月に2回だけでしたが、7月からは1ヶ月で3、4回ミーティングをしました。私たちは2時にミーティングを始め、5時に終わりましたが、ある日は午後7時までしました。ミーティングをするとき、どんなテーマがいいか相談しました。そのとき、私たちは子供たちに衛生とゴミについて教えたいと思っていました。みんなに賛成されて、次のミーティングになりました。どんなところで教えたいか相談しました。そのとき、チェトラさんの話によると、3つのところが可能だそうで、それは、学校か村か孤児院でした。私たちは学校で教えたいと言いました。チェトラさんと百合さんはこの活動がうまくいくために、直接校長先生に連絡しました。私たちも一人ずつ学校を探さなければなりません。私は住んでいるところの近くの学校を探しました。私の家の近くにプレクターポウという名前の小学校があります。私はすぐに校長先生に連絡しました。

ミーティングの時、私たちはバタンバンにある小学校には行けないから、チェトラさんと百合さんにはほかの小学校を探してもらいました。私たちはルセイロットという名前の小学校にしました。小学校が2つ決まったあとで、学生達に考える内容を考えました。私たちは百合さんに日本人の意見を知りたいと伝えました。カンボジア人と日本人の意見があるとき、すごい結果ができました。私たちの活動はうまくいきましたから、とても喜びました。

衛生とゴミの活動は私にたくさん経験をくれました。たくさん勉強して、たくさん相談しました。私はカンボジア人として、自分の国を手伝いました。一番いいことは私だけではなく、私の日本人の友達も手伝ってもらいました。人として、一緒に助け合って、幸せに住みましょう！！！！



## 活動スケジュール

9月7日	カンボジア到着 <small>とうちやく</small> ホテルにチェックイン
9月8日	①HGCYA-JYA 対面 <small>たいめん</small> ②トゥールスレン博物館見学 <small>はくぶつかんけんがく</small> ③JVC訪問 <small>ほうもん</small>
9月9日	①Khemara訪問 <small>ほうもん</small> ②小学校での活動準備 <small>しょうがっこう かつどうじゆんび</small>
9月10日	①ごみ集積場&JLMM活動地訪問 <small>しゆせきじょう かつどうちほうもん</small> ②キリングフィールド ③小学校での活動準備 <small>しょうがっこう かつどうじゆんび</small>
9月11日	①ルセイスロッ小学校訪問 <small>しょうがっこうほうもん</small> (衛生についてのワークショップ) <small>えいせい</small> ②クロマー工場見学 <small>こうじょうけんがく</small> ③NGOの方々夕食会 <small>かたがた ゆうしょくかい</small>
9月12日	①プレクターパウ小学校訪問 <small>しょうがっこうほうもん</small> (衛星についてのワークショップ) <small>えいせい</small> ②振り返り会 <small>ふ かえ かい</small> ③王宮見学 <small>おうきゆうけんがく</small> ④歓送会 <small>かんそうかい</small>
9月13日	①シェムリアップへ移動 <small>いどう</small> ②青年海外協力隊 <small>せいねんかいがいきょうりよくたい</small> 米倉さん・鍵山さんと懇談会 <small>よねくら かぎやま こんだんかい</small>
9月14日	①アンコールワットで朝日 <small>あさひ</small> ②シェムリアップの中学校で朝の清掃活動に 参加 <small>さんか</small> ③シニアボランティア折居夫婦と協力隊員鍵山さんとの懇談 <small>おりいふうふ きょうりよくたいいんかぎやま こんだん</small> ④アンコールワット観光 <small>かんこう</small> ⑤IKTT前夜祭に参加 <small>ぜんやさい さんか</small>
9月15日	①トンレサップ湖クルーズ <small>こ</small> ②NGOるしなの松本さんによるワー クショップ <small>まつもと こんだん</small> ③松本さんとの懇談 <small>まつもと こんだん</small> ④ニューチャイルドケアセンター訪問 <small>ほうもん</small> ⑤シェムリアップのナイトマーケット
9月16日	①シェムリアップ観光 <small>かんこう</small> ②解散 <small>かいさん</small>



9月8日

## HGCYA-JYA顔合わせ 柳田さんと山口さんのお話

真々田 祥子

活動初日はまず HGCYA-JYA の顔合わせからスタートした。事務所2階の6畳ほどのミーティングルームに20名近いメンバーが集合し自己紹介を行った。お互いに初めて会うもの同士、私たち HG-JYA メンバーはもちろん、勉強中の日本語で自己紹介をした HG-CYA メンバーも緊張していたようだった。それでもみんな一様に笑顔でこれからはじまる活動に期待を膨らませていた。

自己紹介の後、事務所長の柳田さんよりハートオブゴールド（以下HG）の活動についてお話をうかがった。HGは1998年から毎年12月にアンコールワット国際ハーフマラソン開催のための活動をしている。HGの活動目的は”Development through sports” (DPS) スポーツを通じた開発。開発とは人々に様々な機会を提供し、新たな力を引き出すことでよい社会を作ること。スポーツで体を動かし、チームワークを養うことは重要なこと。し



かしカンボジアの小学校では体育の授業がまだ十分に行われていないため小学校体育教育の指導書作成の支援を行っている。日本で当たり前を受けてきた体育の授業が自分たちのスポーツを楽しむ心を育ててくれていたことに初めて気がつくことができた。

次に山口さんから今回のHGCYA-JYAのプロジェクトについてお話をうかがった。まず being とは何か？とい

う質問から始まった。being とは生命、つまり人、動物、植物のすべてのことであり、これらに関わりあうことで生きている。それが交流ということ。交流のためには条件があり、まずお互いの壁を無くすこと。今回は HGCYA-JYA というグループによって私たちの壁はなくなった。このグループで今回のテーマ「健康と衛生」についての活動を共有することで深い交流をすることができるというお話だった。ただ一緒にいることではなく何か共通の目標を持ったり、考えを共有することが交流するということであり、お互いを知り、理解しあうための大切な方法であることを知ることができた。



## トゥールスレン<sup>はくぶつかん</sup>博物館

やまむろ ゆか  
山室 友香

### 【施設紹介】

トゥールスレン博物館は、ポルポト<sup>じだい</sup>時代にしようされた監獄<sup>かんごく</sup>で、もとは高校<sup>こうこう</sup>の校舎<sup>こうしや</sup>でした。この博物館には、拷問<sup>ごうもん</sup>や処刑<sup>しょけい</sup>時に使用された道具<sup>どうぐ</sup>が残されており、トゥールスレンに連れてこられた人々<sup>ひとびと</sup>の顔写真<sup>かおじやしん</sup>もたくさんある。また写真<sup>じやしん</sup>を撮る際<sup>とき</sup>に使用された道具<sup>どうぐ</sup>や、拷問<sup>ごうもん</sup>の様子<sup>ようす</sup>を描いた絵<sup>えが</sup>もかざられている。

### 【感想】

トゥールスレン博物館に着いた瞬間<sup>しゆんかん</sup>空気が重<sup>おも</sup>くなった。空はよく晴<sup>は</sup>れていたのに、気持ち<sup>きもち</sup>はとても重<sup>おも</sup>かった。

施設<sup>しせつ</sup>の中には、連行<sup>れんこう</sup>された人々の写真<sup>じやしん</sup>や、当時<sup>とうじ</sup>のベッド、拷問<sup>ごうもん</sup>に使用された道具<sup>どうぐ</sup>などがなまなましく残<sup>のこ</sup>されていた。

最初<sup>さいしょ</sup>に見たのは個室<sup>こしつ</sup>のような部屋<sup>へや</sup>で、ベッド<sup>いちだい</sup>が一台<sup>あし</sup>と、足かせ<sup>あし</sup>、トイレ<sup>お</sup>が置いてあった。部屋<sup>へや</sup>の中<sup>なか</sup>は暗<sup>くら</sup>く、空気<sup>くうき</sup>はひんやりとしていた。床<sup>ゆか</sup>にはいくつものシミ<sup>しみ</sup>があって、きくところによると、それは本物<sup>ほんもの</sup>の血<sup>ち</sup>のあと<sup>あと</sup>だそう。同じような部屋<sup>へや</sup>がいくつか並<sup>なら</sup>んでいて、そのあと<sup>あと</sup>に写真<sup>じやしん</sup>があった。数え切れ<sup>かずえ</sup>ないくらい<sup>くらい</sup>の顔写真<sup>かおじやしん</sup>がかざられていた。無表情<sup>むひょうじよう</sup>だったり、すこし怒<sup>おこ</sup>ったような顔<sup>かお</sup>だったり、ちいさな子ども<sup>こ</sup>からお年寄り<sup>としよ</sup>まで、どんな顔<sup>かお</sup>をしていても、写真<sup>じやしん</sup>を見るたびに悲<sup>かな</sup>しくなった。ここに来<sup>く</sup>る前に<sup>まえ</sup> HGCYA のメンバー<sup>メンバー</sup>の一人<sup>ひとり</sup>に、「トゥールスレン博物館<sup>はくぶつかん</sup>に来<sup>き</sup>た外国人<sup>がいこくじん</sup>の女性<sup>じよせい</sup>はみんな泣<sup>な</sup>くよ。」と言<sup>い</sup>われていたが、その気持ち<sup>きもち</sup>がとてもよくわかった。

拷問<sup>ごうもん</sup>の様子が描<sup>えが</sup>かれている絵<sup>えが</sup>を見たときはショック<sup>おな</sup>をうけた。同じ人間<sup>にんげん</sup>がこんなにひどいこと<sup>こと</sup>をしたのか。信<sup>しん</sup>じられなかった。HGCYA のメンバー<sup>メンバー</sup>が一生<sup>いっしよう</sup>懸命<sup>けんめい</sup>施設<sup>しせつ</sup>の説明<sup>せつめい</sup>してくれたが、それを聞<sup>き</sup>くのが本<sup>ほん</sup>当<sup>とう</sup>に怖<sup>こわ</sup>かった。

このような過去<sup>かこ</sup>があったという事実<sup>じじつ</sup>を見て見ぬふり<sup>みぬふり</sup>はできない<sup>おも</sup>と思った。人間<sup>にんげん</sup>が今<sup>いま</sup>までやってきた悪<sup>あく</sup>をしっかりと見<sup>み</sup>て、これからはこのようなこと<sup>こと</sup>が絶対<sup>ぜったい</sup>におこらないように、という気持ち<sup>きもち</sup>を持つ<sup>もつ</sup>ことが大切<sup>たいせつ</sup>だと思う。



## JVC での勉強会

溝渕 弘子

### 《活動報告①：JVC勉強会》

9月8日午後、私たちはJVC（日本国際ボランティアセンター）を訪問した。JVCは、生態系に配慮した農業による家族経営農家の生活改善や、持続可能な農業と農村開発支援など、様々な活動を行っているNGOである。現在JVCでは、カンダール州の5つの小学校において環境教育活動も行っている。今回、私たちはJVCのカンボジア人スタッフであるボラさんから、その環境教育活動について話をうかがった。

ボラさんはクメール語で話されるので、クメール語のわからないHGJYAたちは、日本語を勉強しているHGJYAたちから通訳をしてもらったり、英語での説明もいり混ぜてもらいながら話を聞いた。説明を聞いた後、HGメンバーのJVC質問チームが準備していた質問にもいくつか答えていただいた。

### ■ボラさんのお話

最初に実際に小学校での環境教育活動の様子の映像を流しながら説明をしていただいた。JVCの環境教育活動は、最初に学校の先生に対して、ゴミや環境の知識を教えることから始まり、それを先生が生徒たちに教えるというスタンスをとっている。学内に生徒たちを集めて行う環境教育キャンペーンで、生徒の代表たちが皆の前で“ゴミをその辺に捨てるのはよくない”という内容の劇をしたり、それに関するクイズを出題したりしていた。それが終わると、学内と学校周辺を先生と一緒に生徒たちはグループに分かれてゴミ拾いをするのである。JVCのスタッフが直接子どもたちに教えるのではなく、子どもたちが劇などで皆に教えるという方法をとった理由は、JVCの一度の活動を一度限りのものにするのではなく、その後も環境教育を学校内で続けていくことができるからだ。ボラさんはおっしゃっていた。さらに、先生方に教えているというゴミや環境の知識についても詳しく説明をしていただいた。内容は、カンボジアのゴミの処理方法の種類や、そのゴミ処理による環境への影響等の説明であった。



### 《活動報告②：JVCチーム発表までの話し合いと発表》

HGCYA - JYA の中から JVC チームを作り、サイ、ナエツト、ゆか、ゆりりん、ままちやん、ひろがメンバーとなった。このチームで JVC 訪問前日にミーティングをし、自分たちの活動に関する疑問点や、聞きたいことなどを出し合い、JVC で質問できるように準備をした。当日、私たちは環境教育活動をしての子どもたちの変化はどうであったかなどを質問をした。9月9日には、HG事務所で JVC チームは JVC で学んだことをまとめて発表した。発表のためのミーティングでは、JVC で学び、自分たちの活動に活かせることは何なのか？という点を短時間であるが、チームで話し合った。その結果、ゴミ拾いについては、ゴミを拾った後のゴミの処理をどうするべきかや、ゴミ拾いはグループ分けをしてそれぞれエリアに分かれて行ったほうがいいのかということ、ゴミ拾いに使う道具はどうするかなどの意見が出た。発表は、JVC で聞いた話の内容のまとめや、チームの話し合いで出た提案をみんなにも共有した。

### 《感想》

私たちが JVC と同じように小学校での環境教育活動を目の前にしていたときに、JVC の活動の様子を学ぶことができ、HG メンバーみんなにとって、自分たちの活動が具体的に考えられるようになったなあって思います。また、たくさん活動の参考にさせていただくことができました。カンボジアのゴミの環境を説明もとても勉強になりました。JVC スタッフのボラさんはとても親切な方で、予定の時間を延長していたにもかかわらず、私たちのいくつかの質問に丁寧に答えてくださったりとてもありがたかったです。その場の雰囲気は、最後のほうはピリピリ。でも笑いありで楽しく充実した時間でした。三ヶ国語が行き交っていて日本人のあたりは理解できないことも多かったけど、真剣に話を聞くことができたし、HGCYA メンバーが気づかって一生懸命同時通訳してくれたりして、みんなの優しさを感ずることができた。

## JVC レポート

フーン

2008年9月8日に JVC で勉強会をしました。時間は午後3時から4時までです。ボラさんが説明してくれました。参加したのは HG-CYAJYA のメンバーです。みんなで頑張って勉強しました。質問を色々して、本当に勉強になりました。私もボラさんに何回も質問をしました。ボラさんが答えてくれたことは本当に大切でした。今からボラさんから習ったことを説明したいと思います。

### ● ゴミの定義

ゴミとは必要ではないもの、いらぬもの、もう使わないという意味です。

## ● ゴミの種類

主に3つの種類がある

—固形ゴミ 鉄や缶やビン、袋や紙など

—液体ゴミ 汚水やトイレの水、古くなったバイクの油など

—気体ゴミ バイクや車から出る排気ガス、工場や会社から出る煙など

## ● ゴミのどこから来るか？

—商業から

カンボジアの商業はあまり活発ではありませんが、最近ゴミがとても増えています。縫製工場の布きれや病院のゴミなど、その後の害を考えずにそこらへんに捨てられています。また、市場もゴミをたくさん出します。デムコー市場からは1日32トンものゴミがでます。

—農業から

カンボジアの農家は、その後の害を考えずに農薬を使いました。また農薬のビンも、田んぼを中心にぼいぼい捨てました。

—家庭から

カンボジア人はたくさんゴミを出します。特に市場に行く時、たくさん袋をもらいます。私は1日に7枚袋を使いました。

## ● ゴミの影響

—環境 ゴミを捨てると環境によくありません。綺麗な風景もゴミがたくさんあると綺麗ではなくなります。

—健康 ゴミがあると空気が汚れます。その空気を吸うと病気になります。例えば、風邪を引いたり下痢をしたり。カンボジア人は井戸の水をよく使います。その水も汚染されているので病気になってしまいます。

—経済 ゴミがあるとハエがたくさんきます。ハエはたいていご飯についてきます。観光客がカンボジアに来た時、

食べ物や飲み物にハエがいると、それを買いたくないので国民は収入源を失い貧しくなります。国民が貧しくなると、国も貧しくなります。

## ● ゴミ処理

ゴミの処理はとても難しいことです。ボラさんの意見でも、ゴミを集めた後にどうしたらいいかわかりませんでした。

《フーン感想》

最後に、ゴミの教育は私達にとって本当に大切です。カンボジアにはゴミがいっぱいあります。どこでも、ぼいぼいゴミを捨てている人もいます。今から私はゴミを捨てません。買い物に行く時も、もらう袋をなくしてゴミを減らそう思います、それにゴミについて他の人にも教えようと思います。カンボジアをきれいにする為に、家族や友達、学生などに教えたほうが良いと思います。



9月9日

## カメラの幼稚園

井上えりか

### 《活動報告》

CYR(幼い難民を<sup>おきな</sup>考える会)の<sup>かんが</sup>支援するNGOカメラの<sup>うんえい</sup>運営する幼稚園を<sup>ようちえん</sup>訪問し、<sup>ほうもん</sup>衛生の問題を<sup>えいせい</sup>先生に<sup>もんだい</sup>インタビューしたり、<sup>せんせい</sup>周囲の<sup>しゅうい</sup>状況を見て何が<sup>じょうきょう</sup>問題の<sup>み</sup>要因となっているかを<sup>な</sup>考える。

### 【幼稚園の概要】

- ・プームスピーアークポツ幼稚園
- ・園児数は40人
- ・算数・芸術・クメール語の他に衛生について教えている
- ・その際に地域のヘルスセンターと協力して活動を行っている

### 【幼稚園で行っている活動】

- ・月曜日～木曜日 つめを切る
  - ・毎週金曜日に手の洗い方を指導
  - ・衛生指導(手洗い・水浴び)は家に帰ってからも続けるように指導している
- ※手洗いしないとどうなるかを教えたり、『手洗いしない子は嫌いよ』と言う
- ・お菓子を食べた後はゴミ箱に捨てるように教える
  - ・食べる前とトイレの後は手洗い
  - ・食べた後は歯磨き指導
  - ・クラスが終わった後に、ほうきを使ってお掃除をする

### 【活動の効果】

- ・入園したばかりの子どもは先生が怖くて泣きながら手を洗うそうだが
- ・衛生面だけではなく、挨拶ができるようになるなどの効果が見られた



### 【当日の活動・反省】

私達が訪れた時、子どもは目をきらきらさせてクメール語の勉強をしていた。教室の中は、衛生に関わるポスターがあったり、CYRのぬいぐるみがあったりしてなんだか通うのが楽しくなるような幼稚園だった。就任ホヤホヤの若い先生もいて、主にこの先生のお話を伺った。このお話の最中に、男の子とたちが立ちションをしていたり、お話とギャップがあるにもかかわらず、先生は『衛生に関する問題はありません』と答え、私達の衛生に関する問題を見つけないければという問題意識を打ち砕いてくれた。使うお水はかめにためている水で、給食もでる。ご飯の前の手洗いやご飯のあとの歯磨きの指導がきちんとおこなわれ、当日も子ども達が楽しそうに手洗いする様子を見せていただいた。この幼稚園に通うことが子ども達の楽しみだというお話を伺って、納得した。この後の勉強会でみんなで話し合った結果、いくらこの幼稚園で衛生について教えようとも家に帰って手洗いを続けたり歯磨きを続けるには、石鹸を買うお金や歯磨き粉を買うお金が必要だということがわかった。そして、この地域に住む家族の多くはそれが難しい。結局、いくらこれをこうしたらいいと私達が見ていないままに言っても、それで解決できる問題であるのならどうになされているはずだ。地域の現状を見て、かつ根本的な問題は何かを考えることが大切だということを実感した。



## カメラの幼稚園

サイ

### 《活動報告》

教育というのは、将来のために何か勉強したいという人々にとって重要な役割を担っている。しかし、健康というもののまた同じくして重要であるから、自分自身にどう気を使うかということを知っていなければならない。健康と衛生について学ぶという今回のテーマは子ども達にとって、とても意義深いものであったと思う。今回、ルッセイケオという地域にある幼稚園において子ども達の様子を見させていただくチャンスを得た。私達が訪問した時、ちょうど48人の子ども達がおりに、文字の読み書きや数字を勉強していた。それに加え、ここでは健康と衛生についても子ども達に教えていた。もし、このような教育が行われずに更に子ども達の健康についてこれほどまでに考える人がいなかったのならば、子ども達は衛生問題について知ることもなく、更には深刻な病気にかかっていたかもしれない。子どもにこういった教育をすることはとても大切であり、かつ身の回りを清潔にするという実践まで行われていた。子どもの脳は新しい知識をよく吸収する。そして日常生活と結びつけて考える柔軟さを持っている。そういうわけで、子どもに衛生について教えるということはとてもいいことである。最後に、この地域でのとりくみについて知る機会を得たことは私とメンバーにとって、理論と実践をリンクさせて考えられる、そして目の当たりにできるよいチャンスであった。とりわけ子ども達が知っておかなければならない問題だけに、彼らにこそ教育を行わなければならないと思う。





9月10日

## ゴミ集積場、JLMM活動地訪問

真々田祥子

プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区、ここにはプノンペン市内全てのごみが集まるスモーカーマウンテン（ゴミ集積場）がある。前日に大雨が降り足場が危ないのではという不安を持ちつつ各自長靴を持って出発した。バンに揺られ約30分、プノンペン中心部の賑わいは消えていき民家の集まる景色を眺めていると、その奥にごみ山が姿を現した。遠くから見ると真っ黒でどこまで続いているのかわからない。あれが全てごみ・・・？誰もがそう思ったに違いない。

ゴミ集積場に到着すると、この地域で子供たちへの教育活動を行っているJLMM（日本カトリック信徒宣教者会）のスタッフさんの案内のもと教育活動の様子を見学させていただいた。



このステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺には多くの人々が暮らしている。人々の暮らしを支えるのがこの集積場に集まるごみである。仕事を求めて地方からプノンペンにやってきた人々が思い通りの仕事に就けず、仕方なく鉄くず、ビン、缶、ビニールなどをごみの中から拾い上げそれらをリサイクル業者に売ることによって生計を立てているのだ。このような家庭では子供も重要な働き手となるため就学年齢に達していても学校に行かずに一日中働かなくてはならない。もし学校に行けたとしても授業についていけずに途中で退学してしまうことも多いという。JLMMさんは小学校入学前の子供たちを対象に年齢ごとに3つのクラスに分け識字情操教育、衛生教育を行

っている。どのクラスも民家の集まる一角に建てられた屋根があるだけの教室で授業が行われていた。机があるのは一番年齢層が上のクラスのみ、小さい子供たちのクラスではみんなで肩を寄せ合うように床に座り先生の後について大きな声で発音練習をしていた。幼児のクラスでは動物の絵が描かれたイラストを使った授業を見ることができた。すぐ横には真っ黒に聳え立つごみ山があるという環境の中でも子供たちの必死に学ぶ姿は何よ

りも輝いて見えた。

教育現場の見学後は、いよいよごみ山へ。ただの黒い山も近づくにつれ少しずつその色が変わってきた。お菓子の入っていたビニール、ごみ袋、古着、靴・・・ありとあらゆるごみは何十年もの時間をかけて集められこのごみ山を作り上げていた。驚くのはその量だけでなく鼻を突く異臭である。特にごみ山の入り口付近は長いこと堆積されたごみからその成分が流れ出し黒い川のようなものを作り出して悪臭の原因となっていた。ごみ山の中心部に向かってゆくとごみを拾う人々と回収したごみを乗せたトラックの姿が増えてきた。この辺りになるといよいよ長靴も埋まってしまうくらいぬかるみが酷く足元が不安定になった。そんな中でも裸足で作業をする子供たちが多くいた。トラックの荷台から新しいごみがおろされると人々は慣れた手つきでリサイクル可能なものを次々と拾い上げていった。このごみ拾いによって得られる収入は一日につき子供で1ドル、若者になると5～7ドルほどにもなるという。不衛生かつ危険な環境にも関わらず普通に働くよりもよい収入を得られるのだ。

このステンメンチャイ地区ごみ集積場は2009年に閉鎖され移転される。移転先には焼却施設ができる予定で現在ごみ拾いによって生計を立てている人々の仕事がなくなってしまう。

JLMMさんは移転前までにごみ拾い以外で生計を立てられるよう「屋台プロジェクト」を行っている。屋台を貸し出し、周辺の縫製工場の労働者相手にスナック類を販売することで、ごみ拾いに頼らない新たな生活環境の実現を目指している。しかし、このプロジェクトに理解を示す住民はなかなか増えないという。たしかに将来的に見れば、ごみ拾い以外の収入源は必要になるが、今現在、目の前にすぐお金に変わる室（ごみ）があるのを無視することは住人にとっては難しいことかもしれない。人々の意識を変えることが最も重要かつ最も難しいことであることが今回の活動で一番感じたことだった。

## ゴミ集積場

ピサル

カンボジアでは、まだまだゴミの処理が適切に行われていません。そういった状況を踏まえて9月10日、私達HGCYA-JYAのメンバーは、ストウンメンチャイ地区にあるプノンペン唯一のゴミ置き場であるゴミ山に行ってきました。最初に、ゴミ山の近くにある子ども達のための施設を訪れました。そこでは子ども達に学習の機会を与えており、学習用品の不足などもあります。友達と文字や数字を数えたりして子ども達は一生懸命そして楽しそうに、勉強していました。それは、子ども達のいろいろなことを知りたいと言う思いが感じられるかのような感じでした。見学させていただいた後は、ゴミ山に向かいます。途中の道で、貧しい家族の小さな家を見かけました。ここに住むことは、ご飯が十分に食べるこ

とが出来なかつたり、医療の不足があつたりとあきらかに困難な状況であることは想像に難しくない状況です。きっと、彼らもゴミのにおいが強烈にするゴミ山の近くには住みたくないはずです。しかし、彼らにはきちんとしたところに住む収入がないのです。もし、ご飯をたくさん食べれるような収入があつたのなら、良い環境の場所に住みたいはずです。しかしゴミ山のゴミ



ミを拾うという職業では、それに見あう収入は得られません。そして、雨季のゴミ山では、焚き火が多く見られました。プノンペン全域から集められたゴミを収集車が運んできます。カンボジアでは、まだゴミを処理する適切な施設がないためにゴミはゴミ山で燃やされます。この事はとても環境に悪く、特にゴミ山の近くに住む人への影響は免れません。ゴミをいくら燃やしたところで、ゴミの量を減らすことは不可能で、毎日毎日ゴミは増えるばかりです。特に、最近カンボジアではプラスチック素材の袋を消費することが多くなっており、プラスチック素材のものは道路にもずっとゴミとして残ります。そして、このようなゴミの処理の仕方によって、ゴミを処理するための土地がなくなってきています。プノンペンに住む人の多くは、このゴミの悪影響についてまだ理解しておらず、ゴミの減らし方についても知りません。プノンペンからのゴミは絶えることがなく、特に最近では商業施設からのゴミが多く、中心部では町一面にゴミが見受けられます。これはゴミの減少に取り組んでない結果と言えるでしょう。このゴミ山訪問を終えて、ゴミの問題がプノンペンの解決すべき大きな問題のひとつであることを理解しました。そして、この膨大な量のゴミを見て、私自身もゴミを減らすことに協力していかなければならないとともに、周りの人にもゴミを減らすことの大切さを伝えていこうと思います。そして、もしカンボジアにゴミを処理するための適切な施設が出来たのなら、ゴミをリサイクルしたりして、これもゴミを減らすことに寄与することでしょう。最後に、ゴミがどんどん増えてくることによって環境への影響も甚大なものへとなっています。ゴミを減らす方法を一人ひとりが理解することで、カンボジアの環境のみならず人々の健康にもいい結果が現れるでしょう。



## キリングフィールド

みやざき あきこ  
宮崎 明子

### 《活動報告》

トゥールスレン収容所に行った翌日、私たちはキリングフィールドへと足を運んだ。ポルポト政権時代、トゥールスレンに収容された人々はこのキリングフィールドと呼ばれるところに連行された後、処刑され、埋められたのである。今でもまだ埋まっている骨があり、地面から白いものが出ているほど、多くの遺体が埋められた。カンボジアにはいくつかキリングフィールドがあるが、今回私たちが訪れたのは、プノンペンにあるキリングフィールドである。入場料数ドルを払い、重い足取りで中へと進んでいった。記憶が正しければ、まず最初に目に飛び込んできたのは、太くて大きな木だった。しかし、これはただの木ではなく、「KILLING TREE AGAINST WHICH EXECUTIONERS BEAT CHILDREN」、すなわち、子どもを打ちつけて殺した木であった。この木の悲しい過去を知り、一同無口になりつつもさらに進んでいくと、直径約5～7メートルほどであったろうか、いくつもの大きなくぼみが見られた。このくぼみは、埋められた人々を掘り出す際にできたものらしい。「ここから頭のない遺体が166も発見された」と書かれた札が立っているくぼみもあった。雨水が溜まっていたうえ、天気が良くなかったせいでいつにも増した、死者の苦しみがひしひしと伝わってくるような暗い雰囲気印象的だった。全てのくぼみを見ながらフィールドを1周し、追悼の意味を込めて建てられた慰霊塔へ。この慰霊塔には、老若男女問わずに、多数の頭蓋骨が置かれており、衣服も置かれていた。最後に慰霊塔の前で手を合わせた。

### 《感想》

自分の愛する人が殺されていくのを目の当たりにしたとき、どれほど辛いだろうか。それは、私たちがどんなに想像したとしても、本当の辛さは経験した者にしかわからないだろう。そして、ポルポト時代が終わった今、カンボジアの人々はたった数十年前に起こったこの痛ましい出来事をどのように受け止めているのだろうか。最後に立ち寄った慰霊塔で無数の頭蓋骨がランダムに置かれているのを見たとき、その1つ1つが名もなき頭蓋骨であることがとても悲しかった。生前は名前を持ち、1人の人間として各々の人生を歩んできた人が、今では数多くある頭蓋骨の中の1つ、という認識しかされていない。この人々の死を無駄にしないためにも、私たちは平和な社会を築いていかねばならない。



9月11日

## ルセイスロツ小学校

山室友香

### 《活動報告》

ルセイスロツ小学校ワークショップ

衛生的な生活の劇とゴミの悪影響についての説明を行い、その後学校とその周辺のゴミ拾いを行った。

### 【活動準備①—使用する物—】

- ・「衛生的な日常生活の劇&クイズ」で使うクイズの答え：紙に答えを書いて子どもたちに見せる。
- ・「ゴミの悪影響について」の説明で使う絵：絵を見せながらゴミの悪影響について説明する。
- ・ごみ拾いのためのゴミ袋：5つのグループに分けてゴミ拾いをしたので、大きめのゴミ袋を5枚と、小さめのゴミ袋を適当な数用意した。
- ・手洗いに使う石鹸、タオル、コップ、バケツ：タオルはJYAが日本から持ってきた物を使用。水道がないため、バケツに水をくんでコップですくいながら手洗いをする。
- ・休憩時間のお水とお菓子：ひとり一本のペットボトルとゼリーを用意した。
- ・日本のゲーム、しっぽとりで使うしっぽ：JYAが古着をもってきて、それらを細く切ってしっぽにした。
- ・小学校へのプレゼント：ノートと鉛筆と、HGCA-JYAの寄せ書きつきのポスターを用意した。

### 【活動準備②—練習—】

「衛生的な日常生活の劇&クイズ」では、Aくん（衛生的な生活）とBくん（不衛生な生活）という設定で劇を行った。見ている人がわかりやすいような動き、大きな動きなど工夫し練習した。また劇の説明も、聞き手に向かってしゃべる練習をした。

### 【活動と反省点】

ルセイスロツ小学校は145名とたくさんの子供たちが待っていた。小さい子供が多かったように感じた。子供たちは、立って並んでいる状態で待っていた。プログラムは予定より早めに進行した。

子供たちは、劇やクイズ、ゴミの悪影響についての説明をよく聞いてくれ、ときどき笑っている様子もあった。

ゴミ拾いでは5グループに分かれ、校内1グループ、校門を出て右側2グループ、左側2グループで行った。子供たちが真っ先に拾ったのは、ビニールやプラスチックではなく落ち葉だった。落ち葉は拾わなくても大丈夫だと言うことを説明するべきだと思った。予定では40分間ゴミ拾いの時間をとっていたが、だいぶ早く終わってしまった。もう少し丁寧にゴミ拾いをすれば丁度いい時間に終わったのではないかと思った。次はしっかり時間通りに進めたいと思った。ゴミの処理は、最初に計画していたのとは違う処理方法になってしまい、そこもまた考える必要があった。

手洗いはゴミ拾いのグループごとに行った。人数が多いためか、バケツのまわりが混雑してしまったが、ひとりひとりちゃんと手洗いが出来ているか確認しながらできたのでよかった。手洗いが終わった子供たちはそれぞれに遊んでしまって、また手が汚れてしまうのが気になった。

休憩時間にお水とお菓子をひとり一つずつくばった。しかし、活動に参加していない近所の子供たちもお水とお菓子をもらいに来たり、もう既にもらった子供が二つめをもらいに来るなどして数が足りなくなってしまう、足りない分を買いに行くことになった。

子供たちの人数をしっかりと数えて、ひとりずつ配るべきだったと反省した。

まとめでは、後ろの方に並んでいた子供たちの集中力が切れ、キョロキョロしているのが目立った。そこで、しっかり話を聞くように促すことが必要だったと思う。「石鹸で手を洗いましょう」「歯を磨きましょう」「煮沸した水を飲みましょう」のかけ声はみんな楽しんでやってくれたのでよかった。まとめ担当でないHGKYA-JYAはもっと子供たちのなかに積極的に入っていくべきだったと思う。

日本のゲームではしっぽとりをやった。全体的には楽しんでできたと思う。しかし、しっぽを手にもってしまったり、しっぽの取り合いげんかになってしまったり、少し問題もあった。ルセイスロツ小学校の活動ではたくさん反省点がみつかったと思う。

## 【感想】

前日まで雨がたくさん降っていたので当日もしんぱいだったが、小学校にいるあいだは雨は降らず、予定通り活動を進めることができよかった。

ゴミ拾いでは、どの子も一生懸命拾っていた。ゴミは飴の包みやストローが目立った。中には土に埋まっていて掘り起こさないととれないゴミも多くあった。

休憩がおわったあと、ペットボトルのふたやゼリーのゴミが捨ててあるのをみてとても悲しくなった。習慣はそう簡単には変えられないんだなと実感した。中にはそういったゴミを拾って私たちのところへもってきてくれる子もいてうれしかった。

言われて気づくこもいて、やっぱり時間をかけて教えていくことが大切なんだなと思った。

しっぽとりゲームはHGKYA-JYAも子供たちの中に入って一緒に楽しむことができた。

子供たちの笑顔はとてもかわいくてこの笑顔がずっとつづくといいなと心から思った。

反省点は多かったものの、楽しく活動ができてよかったと思う。

## ルセイスロツ小学校訪問

ソピア

### 《出発》

—2008年9月11日の7時に事務所にみんなが集まりました。7時半から事務所を出発して、8時頃に着きました。

### 《活動概要》

—ルセイスロツ小学校に着いた時、小学校の校長先生は子供達を事務所の前に集めました。子供達は150人以上いました。8時半から子供達に衛生やゴミ拾いについて教えました。それから、子供達と一緒にゴミを拾いました。

子供達はどんなゴミが悪いゴミかあまり分からないので、木の枝を拾う子もいました。拾った後で、手を洗いました。9時半に衛生について教えてから、子供達と一緒に日本のゲームをしました。11時に子供達にプレゼントをあげました。11時半になると帰る時間です。小学校の校長先生にプレゼント（本や鉛筆や衛生のポスター）をあげました。それから、食事をしました。12時に反省会をしました。

—1時にクロマー工場見学へいきました。クロマー工場見学は面白かったです。クロマーを作るには人の力を使いません。エンジンを使います。一日にクロマーを40個作るそうです。これはすごいですね。3時に事務所へ帰りました。



《感想》ルセイスロツ小学校へ行ったあとで、新たな知識を得ることができました。

例えばグループで働く大切さについて学びました。外国の人と一緒に仕事をするのは初めての経験でした。そして私たちの社会のために良いことをできて、とても楽しかったです。活動の中から、グループでどのように働くか、大勢の人たちとどのように一緒に考え、仕事を分担するか、

そして私たちが地域の一員としてこのような活動することの意義を学びました。特に私たちの次の世代の人たちと衛生についての知識と一緒に勉強できました。今回の活動に参加できてとても幸せでした。HGに次の活動を計画してほしいです。HGと日本の学生さん、私たちに知識を与えてくれ、私たちの国の発展を助けてくれてありがとうございます。皆さんの幸福と成功を願っております。



## クロマー工場こうじょう

ブントゥーン

私はピッチ・ブントゥーンと申します。衛生とゴミの活動についてはとても楽しかったです。活動の中で、クロマー工場へ行くことはとてもいいことです。クロマーを作っている人は私の友達です。この活動にクロマー工場見学を入れたのは日本人にカンボジアの生活を分かってもらうためです。もう一つはクロマーというものは、カンボジアの伝統的なものだからです。クロマー工場へ行く日はとても楽しかったです。日本人は嬉しそうにクロマー工場へ行きました。私はいろいろな質問をされました。日本人のなかで、ママさんと明子さんはたくさんクロマーを買いました。ママさんは11枚も買いました。ママさんにどうしてたくさん買ったのか、と聞きました。友達に買ってあげるお土産だと答えました。皆さんの笑顔を見ると、もっと嬉しかったです、私は日本人にクロマーをおってあげました。



■(右)クロマーを実際に織ってるよ♪



■(左)この工場見学を提案してくれたブントゥーンさん！！



## 反省会と次の日の準備

やまむろ ゆか  
山室友香

### 【ルセイスロッ小学校ワークショップの反省】

この小学校では、予定通りに進まなかったり、問題が起こったりと反省点が多かった。衛生的な日常生活の劇：劇の動きがわかりにくかったり、ふりが小さいという点があげられた。

ゴミの悪影響についての説明：説明がクメール語なので、日本人は説明に合わせて絵を見せるタイミングがつかめなかった。また、絵を見せながら歩くスピードが速く、絵を持つ位置もばらばらで見にくかった。

ゴミ拾い：予定では40分時間をとっていたが、それよりもかなり早く終わってしまった。プラスチックやビニールなどの他に落ち葉などを拾っていた。

手洗い：ゴミ拾いから帰ってきたながれで手洗いを始めてしまったので、バケツのまわりが混雑した。手洗いが終わった子供たちは各自ばらばらに遊んでいた。

休憩（お菓子&お水）活動に参加していない近所の子供たちが来たため、お水とお菓子が足りなくなってしまった。既にお水とお菓子をもらった子供が「まだもらってない」と言って2つめをもらっていた。休憩後、ペットボトルのふたやお菓子のゴミがそのへんに捨てられていた。

まとめ：集中力がきれ、しっかりまとめを聞かない子供がいた。

日本の遊び：しっぽ取りゲームでは、しっぽを手を持って逃げたり、とりあいになってけんかをする子供がいた。

### 【次の日の準備】

劇やゴミの悪影響についての説明の部分は、再度確認して本番にそなえた。

ゴミ拾いの時間は時間を決めてその時間内でめいっばいゴミ拾いをすることにした。

また、大きいゴミ袋がめいっばいになってしまったため、次回は袋を多めに持っていくことにした。

手洗いは、順番を決めて待っているグループ、もしくは終わってしまったグループは、まとめのときに行うかけ声の練習をすることにした。

休憩のときのお水とお菓子が足りなくなってしまうようにすこし多めに持っていくことにした。また、劇のときに役割がない人が子供たちの人数を数えて人数を把握しておくことにした。

まとめでは集中していない子供が目立ったので、まとめをしっかり聞くように、役割がないHGCYA・JYAが子供たちの中に入っていった声をかけることにした。

ゲームは内容をかえて、カンボジアの遊びとじゃんけん列車をやることにした。



9月12日

## プレクターパウ小学校

山室友香

### 《活動報告》

プレクターパウ小学校ワークショップ

ルセイロッツ小学校での反省を生かし、衛生的な生活とゴミの悪影響についての説明、学校と周辺のゴミ拾いを行った。

#### 【活動準備—使用する物—】

・「衛生的な日常生活の劇&クイズ」で使うクイズの答え：紙に答えを書いて子供たちに見せる。

・「ゴミの悪影響について」の説明で使う絵：絵を見せながらゴミの悪影響について説明する。

・ ゴミ拾いのためのゴミ袋：ルセイロッツ小学校ではゴミ袋がたりなくなってしまったため少し多めに用意した。大きいゴミ袋は各グループに一枚ずつしかないので、小さいゴミ袋を多めに持って行った。

・ 手洗いに使う石鹸、タオル、コップ、バケツ：タオルはJYAが日本から持ってきた物を使用。水道がないため、バケツに水をくんでコップですくいながら手洗いをする。

石鹸はルセイロッツ小学校で余った物を使用した。

・ 休憩時間のお水とお菓子：ひとり一本のペットボトルとゼリーを用意した。

・ 小学校へのプレゼント：ノートと鉛筆と、HGCYA-JYAの寄せ書きつきのポスターを用意した。

#### 【活動と反省点】

前日の小学校とは違って子供たちの人数は少なく、年齢も大きめだった。ひとりひとり椅子に座っていた。

前回は子供の数を正確に把握していなかったため手洗いやお水・お菓子を配るときに混雑してしまったので、今回は劇の間に2人で子供の人数を数えることにした。

劇は前日より動きが大きくなりやすくなっていた。

ゴミの悪影響の説明は、前回は絵を持つ位置がばらばらで、なおかつ見せながら歩くスピードが速すぎるといふ指摘をうけたのでその点に注意しながら行った。

ゴミ拾いでは最初に数えた人数を5つに分け、前回と同様、校内1グループ、校門を出て右側2グループ、左側2グループでゴミ拾いをした。今回は決められた時間いっぱいゴミ拾い



ができたが、途中で「つかれた」という声が子供たちの中から出てきた。しかし、最後までしっかりゴミ拾いをしてくれた。



ゴミ拾いから帰ってきた後は、グループごとに手洗いをした。一気に全部のグループが手洗いをすることは不可能なので2グループずつ行った。前回は手洗いを待っている子供や、手洗いが終わってしまった子供はやることなくばらばらに遊んでしまっていたが、今回はまとめのときの「石鹸で手を洗おう」などのかけ声の練習をしたり、子供たちからの日本についての質問をうけたりするなど、時間を有効に利用することができた。

お菓子を配るときは、子供たちはしっかり自分の椅子に座っていたため全員に配ることが出来た。はじめに人数を確認したのもよかったと思う。

まとめもみんなしっかり聞いてくれ、かけ声も楽しそうにやっていた。大きい子供たちは若干恥ずかしがっているようだったが、それでもしっかりやってくれた。

前回のしっぽ取りゲームでは、けんかをする子供がいたため、今回はしっぽとりはやらず、カンボジアの遊びとじゃんけん列車をやることにした。カンボジアの遊びではHGCYA-JYA対子供たちで葉っぱのとりあいをした。10人对10人でやるのでほとんどの子供たちは応援になってしまったが、とても盛り上がって楽しくできた。

じゃんけん列車もうまくルールが伝わって楽しくやることが出来た。

ルセイスロツ小学校の反省をもとに内容の改善をしたため今回の活動は成功だったと思う。

### 《感想》

ルセイスロツ小学校ではたくさんの反省点があがったため、今回の活動も不安部分が多かった。しかし大きいこどもが多かったこともあってスムーズにプログラムが進行したし、前回の反省点も生かされていたと思う。

ゴミ拾いの時に「つかれた」という声があがったことや、ゴミ拾いの最中に、お店でフルーツを買って座って食べている姿が見られたことが残念だった。

手洗いの時に、大きい子供たちが恥ずかしがりながらもちゃんと手洗いをしてくれたのがとても印象に残っている。素直でいいこたちばかりだった。

休憩のあとにお菓子やペットボトルのふたのゴミが落ちているのが気になった。しかし、それに気づいて拾っている子供もいてうれしかった。

特に楽しかったのはカンボジアの遊びで、HGCYA-JYAも本気になって葉っぱを取り合った。子供たちはやはり素早く、HGCYA-JYAは負けてしまった。応援していた子供たちもとても楽しそうであった。このようなゲームで国を超えて楽しめるのはすごいことだと思った。このような活動がもっと広がっていけばいいなと思った。

## プレクタポウしょうがっこう小学校

ソパーネット

2008年9月12日きんようび金曜日、プレクタポウしょうがっこう小学校はプノンペンからバスで30分くらいかかります。今回の活動は9人の日本人と7人のカンボジアの大学生が衛生について子ども達に教えました。この小学校では、まず校長先生に挨拶をしました。次に、HG-CYAJYA は一人ずつ自己紹介をしました。クメール語で挨拶をした人がいておもしろかったです。サイさんが不衛生な生活をしている人、クリタさんが衛生的な生活をしている人の役で劇をしました。私と他の人は色々なことを準備しました。子ども達が120人いたので5つのグループに分けました。1つのグループに子ども達が24人、メンバーが3人いて50分くらいゴミを拾いました。1,2グループは校内で3,4,5グループは学校の外のゴミを拾いました。時間になると、一緒に手を洗ってから水を飲んでおしゃべりしました。11時にみんなでゲームをしました。とても楽しい時間でしたが12時に終わりました。今回の活動に参加して、私は色々なことを学び、日本語をたくさん話す機会がありました。日本語が上手になったと思います。また、衛生についてもよく理解しました。カンボジア人の学生は毎日勉強してばかりで、ゴミや環境の問題について気を配りません。でも、今はこの活動を通してよく考えるようになりました。一生懸命ゴミを減らします。また、子ども達自身も衛生的な環境を求めていると思います。最後に、健康のために衛生的な生活をつくりましょう。それに環境を綺麗にするために、ゴミを減らしましょう。





## HGCIYA-JYA活動振り返り会

9月8日～12日までの5日間、「健康のため、衛生に注意しよう！」というテーマのもと、みんなで活動準備や勉強会、小学校での活動を行いました。

- (1) この5日間でメンバーはどんな事を感じ、学んだのか？
- (2) 今後も自分たちが互いの国でできることは何なのか？
- (3) 次のHGCIYA-JYAメンバーに伝えたいことや、活動の改善点は何か？

これらの点について意見を出し合い、振り返りを行いました。

### (1) それぞれが感じた事や学んだこと

木村：

- ・ 最初は自分が、子どもたちに衛生について教えに行くという気持ちだったが、子どもたちから教えてもらうことのほうが多いということがわかった。
- ・ JLMMの活動地見学に行った時に、ゴミ集積所の横で、電気も無い中で頑張っている子どもたちがたくさんいた。自分は今まですごく恵まれた環境にあったのに、忘れていたと感じた。これから自分も、子どもたちに負けないように頑張りたい。

フーン：

- ・ 今回の活動から、大切なものを2つ勉強した
  - ① 日本語の自然な発音
  - ② カンボジアの子どもについて
- ・ Khemaraの勉強会で、たくさんの子どまと会った。子どもたちの生活状況は厳しいが、みんな頭が良く一生懸命頑張っていた。またJVCの勉強会では、ゴミの種類や分別方法、環境や健康への影響など沢山の知識をもらった。今まではゴミ処理については、全て燃やせば良いと思っていたが、本当は有毒なガスが出たり、様々な問題がある事がわかった。
- ・ 小学校での活動に向けて、何度も劇の練習をした事が心に残っている。1校目の活動は、最初は不安だったがみんなが手伝ってくれた。2校目の活動は、先生が私たちのために机やイスを準備してくださっていて、とても嬉しかったし、楽しく活動できた。
- ・ カンボジアの良い点、悪い点について気付くきっかけになった。  
良い点：(衛生のクイズの部分で) ごはんを食べる前に何をするのかや、トイレに行った後で何をするのかについて、“手洗いをする”という事をちゃんと知っている子どもたち

ちが沢山いた。また、以前は小学校までで教育はストップし、中学校は行かずに働かないといけない子が多かったが、今は中学や高校に進学する子が多い。希望すれば大学にも行けるようになった。

悪い点：ごみの悪影響を知らない人がとても多いこと。みんなゴミをポイポイ道に捨てる。また、勉強したくても貧しいため学校に行かせてもらえない子が沢山いることや、厳しい生活状況の子どもたちが未だに沢山いることが問題。

#### 岡本：

- ・ 最初は健康や衛生というテーマについてあまり興味が無かったため、考えるのが難しかった。小学校での活動中に、まとめの部分で私たちは「余計なプラスチック袋はなるべくもらわないようにしよう」とか、「自分の袋やカゴを持って買い物に行こう」と提案したが、そんな自分たちはちゃんとやっているのかが気になった。自分はやっていないのに、子どもたちに言っていて心が痛かった。
- ・ 劇はクメール語のため、セリフ付の参加が難しかったが、もっと劇中で話せるとよかった。これからもっとクメール語の勉強を頑張りたいと強く思った。

#### レクネナー：

- ・ 衛生的な生活に気をつける事や、ゴミの悪影響について子どもたちに伝える事ができてよかった。活動に参加できてとても嬉しかった。
- ・ 活動に参加するまでは、ごみの悪影響については自分も詳しく知らなかった。市場などで自分はたくさんのごみを出していた。今後は私たち1人1人が、ゴミを削減するために行動すべきだと思う。

#### ナエット：

- ・ ルセイスロッ小学校の活動では、水が足りない、子どもがなかなか静かにしてくれないなど反省点が多くあった。だがゴミ問題について知識を得たり、みんなで考える事ができてよかったし、活動はとても楽しかった。
- ・ 自分でごみの削減や、衛生的な生活を心がけて行動し、それを周りの友人や家族に教えたい。そうやって今回の事を、周りにも広げていきたい。

#### 真々田：

- ・ ごみ問題に関しては、昨年環境について活動した経験があるので気をつけて行動していた。しかし岡本くんが言っていたように、プラスチックごみの削減などが良いことと頭でわかっているけど、日本人もなかなか行動に移せない。実際に行動することの難しさや、ごみが出る量は日本もカンボジアも同じだと思う。
- ・ 日本とカンボジアで違うのはごみの処理方法。日本にはごみが出てきちんと処理する

場所がある。カンボジアにも近い将来、そのような場所ができるよう、国が動くように活動したいと思った。

- ・ また、今回のような活動をしたからといってすぐに現状が変わる訳が無い。まずはそれぞれの国の現状を知ることが大切であると思う。

サイ：

- ・ JVCの勉強会で、ごみについての知識がよくわかった。実際にルセイスロッ小学校では、出たごみはすべて池に捨てるという現状がある。またプレクタパウ小学校では休憩時間に子どもたちが、お菓子のごみをすぐポイ捨てしていた。子どもたちには難しかったのだろうか？ゴミ問題はカンボジアにとってとても難しい問題だと思った。
- ・ カンボジアではごみはすぐ捨て、プラスチックは2度利用しないが、日本では再利用する人もいる。カンボジアではごみ収集車は限られた場所にしか乗れないが、日本では全国に来るなど、日本とカンボジアの様々な違いがわかった。

ピサル：

- ・ 子どもたちがどうしたら活動に参加しやすいかを、今回のミーティングや勉強会などから学ぶことができた。とくにKhemaraの保育園の先生からは色々な事を学んだ。またプレクタパウ小学校の活動では、何か指示をしても悪い言葉を返す生徒もいて、大変な部分もあった。
- ・ HGJYAメンバーからは、市場では自分のバックを使うことや、プラスチック袋を削減する事を学んだ。1人1人の行動が大切だと思った。

クリター：

- ・ 劇を担当できて楽しかった。そして活動を通して、ごみについて色々な事がわかってよかった。子どもたちにとっても、ごみについて知るきっかけになったのではないかな？
- ・ 今までは、例えば自分と友達の間にごみがあって、それをお互いに相手が拾うだろうと思って結局そのまま・・・という事がよくあった。しかしこういう事をなくすために、自分自身が拾うようにするなど、自分が行動しないといけないと思った。

溝渕：

- ・ カンボジアに来る前は、カンボジアの現状は全く知らず、衛生をテーマにした理由もわからなかった。“ゴミはゴミ箱に捨てる”という事は日本では当たり前で、カンボジアでそれができていないという事が想像できなかった。しかしカンボジアの農村部ではごみ収集の方法が無かったり、道端にごみがいっぱいあったり、現状を見て初めて今回のテーマの大切さがわかった。
- ・ カンボジア人はいつもとても楽しそうに見える。それを見ているとこちらも幸せな気分になる。自分もそれを見習いたい。

みやぎき  
宮崎：

- ・ 今回「自分の中の悪いところを良くしたい」という目的で参加した。今回の活動中に、日本のウーロン茶のためにメコン川上流の木を切って茶畑にしたため、洪水が起きて苦しんでいる人々がいるという話を聞いた。今まで私は自分の事しか考えていなかったが、この話をきっかけに、自分たちが良い思いをしている時にカンボジアのみんなが困っていたらどうしようと思うようになった。自分がしている事が他人にどんな影響を及ぼしているのか考えられるようになった。これが私の変わった事。

やまむら  
山室：

- ・ 印象に残ったのはゴミ問題。処理方法など、日本とこんなに大きな違いがあることに驚いた。また JVC の勉強会でボラさんが、活動によって変わった事はほんの少しだとコメントしていたのが印象に残った。人の習慣を変えるという事は本当に難しい。
- ・ カンボジア人はとても勉強熱心だと思う。自分ももっと他国の言葉を勉強したいと思った。カンボジア人は毎日とても楽しそう。日本人は年間3万人が自殺するらしいが、カンボジアでは生きてくても明日が無い人が3万人いるという話が強く印象に残った。

ブントウーン：

- ・ 今までミーティングに毎回参加していたが、当日参加できなくなって残念だった。JVC の勉強会では、ごみの悪影響についてはっきりわかって本当に良かった。今回の活動を通して、カンボジアでもっとゴミについて子どもたちに教えたいと思った。でもなかなか機会が無い。今回学んだことを1人だけでやるのではなく、他の人にも伝えてもつとき綺麗な国を作っていきたい。

いのうえ  
井上：

- ・ ごみの話や手洗いの話など、ミーティングで話していた事と、実際学校に行ってみて見た事は全然違っていた。現地にも実際行ってみて、関わらないとわからないことは本当に沢山あるんだと実感した。また、カンボジアの人々は衛生について知識が無いわけじゃなく、知っているけどそれができない現状にあるという事がわかった。

よしだ  
吉田：

今回のツアーを通して、私が感じたことは、カンボジアの人はみんなとても優しいということ。とくに子どもたちはみんな明るくて、本当にかわいかった。これからのカンボジアが、子どもたちが安心して伸び伸び暮らせるカンボジアであるといいと思った。自分はクメール語の勉強をしっかりと、もっとカンボジアの人たちと仲良くなって日本に帰りたと思う。

たなか  
田中：

- ・ 今回5月からずっと活動準備をしてきて、異文化コミュニケーションの難しさを痛感した。自分の考えをうまく伝えられなくてもどかしい思いをする時が沢山あった。また、“衛生”というテーマは本当に幅広くて問題点を考え出すときりがないため、どこからどこまでを私たちが扱うべきか悩んだり、日本とカンボジアの現状の大きな違いに戸惑う事も沢山あった。ここから自分たちの目的をはっきりと決めて活動を作る事の大切さや、継続する事の大切さを学んだ。
- ・ 今回の活動で大切な仲間ができた。ここから他国の仲間をより身近に、大切に思う気持ちが生まれたり、自分が行っている事他国への影響について深く考えるようになる。これが平和への第一歩であり、この活動の意義なのではないかと思う。



## (2) 今後も自分たちが互いの国でできることは何なのか？

みんなから出た意見を大きく3点にまとめました。

- ①まずは自国や他の国が置かれている現状をもっと知ること
- ②他人任せではなく、自分自身が衛生的な生活やゴミの削減を心がけて行動すること
- ③そして自分1人だけではなく、自分が知った事を周りの人にも伝えていくこと

よりよい世界のために、これらを私たちは実践していきたい。

## (3) 次の HGCYA-JYA メンバーに伝えたいことや、活動の改善点は何か？

- ・ 5月から行われた HGCYA 活動準備ミーティングでは、HGCYA がせっかく決めた事だから・・・という思いもあって、なかなか HGJYA としての意見を言えなかった。しかしもっと日本人としての意見を言うべきだったと思う。そこから新たな発見があったり、HGCYA のより深い意見を聞き、もっと深い議論ができたかもしれない。今後はどんどん意見を出して、HGCYA と JYA が互いに作りあげる場にしたい。次の HGCYA-JYA メンバーにもどんどん意見を出してほしい。
- ・ 今回 HGJYA 側は HGCYA ミーティングの情報をメールで受け取り、それに対しての意見を担当者（田中）に連絡し、ミーティングに反映させるという流れだったが、やはり直接ミーティングに参加するのと担当者を通して参加するのはかなり違う。この活動準備のために、メンバーがどのくらいの時間をさけるのかにもよるが、もっと双方で作るミーティングにしたいと思った。今すぐには無理かもしれないが、いずれは skype

もうまくミーティングに活用したい。また、HGJYA同士で事前合宿などがあると、活動前に顔合わせやミーティングができて良いと思う。

- 日程が盛りだくさんだった。もっと休む時間も必要なのではないか？
- 活動詳細が決まるのがあまりにも直前すぎたのではないか？そのため8月に入ってからや、日程中に準備でバタバタした。事前に準備計画を作って準備できると良かった。
- HGCYA募集の締切が無かったため、活動直前まで人数が前後した。また全日程参加できないメンバーが多く、中にはほとんど活動にいないメンバーもいた。HGJYA だけではなく HGCYA にも募集締切を設け、活動期間中はなるべく全日程参加してもらうようにした方が良いのではないか。
- また HGCYA ミーティングも、毎回参加できるメンバーが偏っていたように思う。今後もカンボジア側で活動を作っていくなら、毎月ミーティングを行う回数や日程などがある程度HG 側から提示して、そこには必ず参加という条件付きでメンバーを募集したほうが良いのではないか。
- 「衛生」というテーマに対する関心の強さが、人によってバラバラだったのではないかと思う。例えばシェムリアップ移動後に、NCCC でごみの悪影響について説明したり、ごみ拾い活動を行ったが、ある HGCYA メンバーからは「なんでこんなにゴミ拾いばかりするの〜？」という声があがっていた。シェムリアップに行ける HGCYA メンバーが少なかったため、シェムリアップでの活動内容は HGJYA 中心で決めたという理由もあったからかもしれないが、ゴミに関する活動はプノンペンでも行ってきたため、この発言は HGJYA メンバーにとってショックなものだった。  
テーマへの関心の度合いの違いや、参加動機は人それぞれ違って良いが、活動の目的や活動の意味の共有が不十分だったのではないか。メンバーでテーマを決定する際に活動目的や決定した理由などを明確にし、しっかり共有することが大切であると思う。





おうきゅう  
王宮 Royal palace

井上 えりか

時間がないよーという中、駆け足でまわった王宮。最後の活動が終わり、みんなへトヘトでした。プノンペン最後の目ということもあり、みんな話しに花が咲いた。さすが6ドルも払っただけあり、分厚く立派なパンフレットが手元に。しかし英語で難しいので、某有名ガイドブックによると現在の建物は1919年に建造されたらしい。撮影禁止の建物もあり、なんだか厳かな雰囲気。閉門の5時間近ということでお客さんも本当にまばら。そんな中、みんなで占いをやろうということになったが、結構なお値段なのでやめることにした。世知辛い世の中です。何はともあれ、美しい王宮に乾杯！！



■ (左)みんなでパチリの一枚、さて誰がいない？ ■(右上)全景 ■(右下)夢中で何を撮る？



かんそうかい  
歓送会

きむら こういち  
木村 光一

12日の夜、いよいよ今回の衛星教育の活動も最終日となり、この日はみんなで食べる最後の夕飯になった。最後ということなので、お世話になったゆりさんに内緒で寄せ書きを書くことに。乾杯が終わり、みんないい感じになってきたところで色紙を渡すと、ゆりさんがうれしそうにしてくれたのでよかったです。また、活動を行った小学校の先生方も来ていただき、本当に有意義な時間を過ごすことができました。かなり盛り上がった歓送会でした。でもやっぱり終わりが近づくと自分はずっとしんみりしてしまいました。今回のツアーに参加できて、色々よかったと思えることはあるけど、やっぱり友達ができただけが一番よかったです。これからもみんな友達だよ！！





9月13日

ほんとう こくさいきょうりょく  
☆本当の国際協力☆

たなか ゆり  
田中 百合

9月13日、私たちはバンでシェムリアップへ移動した。

プノンペンでのハードスケジュールにも関わらず移動中の車内はにぎやかで、みんなクメール語や日本語の歌で盛り上がった☆そしてHGJYAメンバーのえりかが一言

えりか：「私ギャグ考えたんだ！バストアップ ヒップアップ シェムリアップ♪  
おしりペンペン プノンペン♪」

なんだか妙にゴロがいい！！えりかは天才かと思った。  
(じつは意外とこのギャグを作るには、けっこう時間がかかっているらしいが・・・！)

早速HGJYAメンバーにこれを教える私たち。

恥ずかしがりながらも、動きつきでやってくれるHG  
CYAに車内は大爆笑☆

そしてHGJYAのモニーが一言

モニー：「これは日本のギャグですね～！では今度は  
カンボジアのギャグを教えます」

えりか：「これが本当の国際協力だね☆」



しゃない  
車内での1コマ☆

・・・たしかに！とこの時私は思った。

国際協力という言葉だけを聞くと、緊急援助だったりプロジェクト運営だったり何かものすごく大きな事をしているイメージが強かったが、こういうギャグを教え合う時だって、日本人とカンボジア人が国境を越えて協力している。そう考えると、学生の私たちにもできる国際協力の形って本当にたくさんあるんじゃないかと感じた。

誰だって、身近なところから何らかの形で国際協力はできる。自分も身近なところから、自分らしく関われる形を探していきたい。そして少しずつ、一緒によりよい未来を創っていけたら、それってとても素敵なことだと思う。



## 自分にはなにができるのか(青年海外協力隊)

岡本謙吾

### 《活動報告と青年海外協力隊員の紹介》

青年海外協力隊のメンバー米倉さん、鍵山さんとの夕食を兼ねての懇談。

米倉さんと鍵山さんのお二人は、シェムリアップで活躍されている青年海外協力隊のメンバーである。米倉さんは中学校で体育を教え、鍵山さんは教員養成校で指導をしている。

### 《感想》

私たち、HG CYA-J YAの活動の舞台は、プノンペンからシェムリアップ移った。私たちのメインの活動はプノンペンの小学校での活動であったため、前日にそれらの活動を終えた私たちは、シェムリアップに向かうバスの中では、少し緊張の糸が切れていたような気がする。そんな空気を残したまま、夕食場所となるモロッポー・カフェ2についた。当然ながら、質問などをしっかり考えてこの場をむかえたメンバーもいたが、何も考えずむかえたメンバーも多くいたことだろう。どちらかといえば私も何も考えず向かえたメンバーだったのかもしれない。そのため、この場に着いた瞬間、一瞬にして緊張がこみ上げてきた。そんな中で懇談はスタートした。人数も多かったため二つのテーブルに分かれ、私は米倉さんのほうに座らせてもらうことになった。第一印象は、外見は小柄で体はガッチリ締まっている、私が言っているのかわからないが、好青年ふうで自分の中に芯を持っている。何事に対しても厳しい人であるかのように思えた。しかし、米倉さんは私たちの雰囲気を感じ取ったのだろうか、すぐに冗談を交えながら話を始めてくださり、場の空気を和ませてくださった。あるHG J YAのメンバーは米倉さんの気さくさに「関西出身ですか？」と質問してしまうほどであった。しかし、一度自分の活動について話し始めると、人が変わったかのように、真剣かつ俗な言い方をすれば「あつい」方であった。米倉さんは、普通は体育を教えられているが、「それ以外に自分に何かできないのだろうか？自分には何ができるのだろうか？」と問いかけながら活動されてきた。そして考え抜いた末に始められたのが、清掃活動と柔道のクラブ活動だった。しかし、その活動を始められたあとも、「この活動がこの人達のためになっているのか？」「この活動は自己満足になっているのではないか？」と常に自問自答されているという。私たちHG CYA-J YAは、この米倉さんの姿勢に何か上手く表現はできないが「大事な何か」を学んだ気がした。この話題の他にも、「なぜ青年海外協力隊に応募したのか」、「カンボジアの現状」、「国際協力とは」、「将来について」、「大学時代」など多岐にわたり懇談をさせていただいた。

今回のハート・オブ・ゴールド活動に参加したHG J YAのメンバーの中には、国際協力に興味・関心のあるメンバーも多くいた。その第一線の現場で活躍されているお二人のお話が聞けたことは、私たちHG CYA-J YAメンバーにとって大きな収穫となった。

9月14日

## 朝日！！in アンコールワット！！

木村 光一

14日の朝、といっても3時30分。起きられる人のみ集合してアンコールワットへ朝日を見に行くことになった。まあ正直あんま人数は来ないとは思ってたけど日本人はなんと僕とけんごさんとゆりさんの三人のみ。一方カンボジア人は全員集合。しかもテンションはMAX。しかし僕もここで引き下がっては日本の恥だとなぜか思ってしまった、大和魂でテンションをあげていざ出発！途中で警察を振り切る。ほんとにカンボジア人はスゲーと思っていたら、一方通行だから通れないと言いだす。守ることの優劣がよくわからないなと思いつつもアンコールワットに到着。もちろん真っ暗で朝日が昇るまで待つこと約2時間・・・いつの間にか周りは明るくなっていた。残念ながらこの日は曇りで朝日は見られなかったが、真っ暗な中アンコールワットを歩く経験や、カンボジア人のふりをしてアンコールワットに入るなんてそうできないし、朝早く起きてよかったと思う。

帰り道、日本人組は疲れ果てていたがカンボジア人組は元気だったのは言うまでもない。

## 清掃活動と感想

ソバンモニー

今回の活動は9人の日本人大学生と4人のカンボジア人が、子ども達と一緒にごみ拾いをしました。この小学校では、まず校長先生に挨拶しました。次にメンバーは一人ずつ自己紹介をしました。日本人もクメール語で挨拶をしたのが面白かったです。それから2つのグループに分けるためにジャンケンをしました。1つの手袋と袋を二人でわけました。学校の周りを半分ずつに分けて、ゴミを拾いました。それが終わってから、みんなが休憩している間に私達は子ども達に衛生と健康について教えました。時間になったので、一緒に戻って手を洗いました。それからおしゃべりをしました。10時に一緒に朝ごはんを食べてアンコールワットを見に行きました。2時に昼ごはんを食べて4時にIKTTに行きました。IKTTでは日本人がたくさんいました。パーティがあって、ダンスやファッションショーを見たり、音楽を聴きました。とてもおもしろかったです。今回の活動に参加して、私は色々なことを学び、日本語でもたくさん話したので日本語が上手になったと思います。また衛生についてもよく理解しました。カンボジアの大学生は、毎日勉強してばかりでゴミや環境の問題についてあまり気を配りません。でも、この活動をして衛生やゴミについて考えるようになりました。最後に、健康のために衛生的な生活を作りましょう。環境を綺麗にするためには、ゴミを減らさなければなりません。



## シェムリアップの清掃活動／折居夫婦・鍵山さんとの朝食

おかもとけんご  
岡本謙吾

### 《活動報告》

シェムリアップの中学校で、学校周辺の朝の清掃活動に参加。  
折居夫婦と鍵山さんと朝食をとりながらの懇談。

### 【中学校での清掃活動】

私たちは、米倉さんが始められた中学校周辺の朝の清掃活動に参加させていただいた。この朝の清掃活動は普段は、この中学校の先生、生徒、青年海外協力隊の米倉さんと鍵山さん、シニアボランティアの折居さん夫婦が参加されていて1ヶ月に1回行われている。今月は、夏休みであったため、生徒が参加するかどうかを米倉さんは大変に心配されていたが、それにもかかわらず多くの生徒が集まって参加してくれた。ほとんどが、米倉さんの柔道部の生徒だという。

まず始めに、二つのグループに分け、校門を出たあと左右に分かれごみ拾いを始めた。手にはゴム手袋を着け、ビニールとトングを持ち、衛生にもしっかりと気を使われていた。子ども達は元気にゴミを拾い、それにつられるようにHGCHA-JYAのメンバーも一生懸命ゴミ拾いをした。そして、橋をわたり二つのグループの合流ポイントへ到着。そこで、折居さんが、シェムリアップ川とその沿岸に生活している人達の話をしてくれた。ゴミ拾いをしている時、すでに気が付いてはいたがシェムリアップ川の周りには、多くのお世辞でも綺麗とは言えないような家が立ち並んでいた。折居さんが言うには、シェムリアップ川の周りは公共の土地なので、本当はいけないのだけれども貧しく行き場のない人達が勝手に家を建てたのだという。そして、ここで問題になるのが、この人達は下水を川に垂れ流すということである。そのため水はどんどん汚染されていく。この水で洗濯したり、水浴びしたりする人たちもいる。折居さんは、この人達の立ち退きと彼らその後の保障、また水道設備の重要性を強く言われていた。折居さんが話をされている一方、HGCHAのメンバーがHGの活動を通して学んできたことを子ども達に伝えている姿がみうけられた。HGCHAのメンバーはたぶん折居さんの日本語の説明がわからなかったのだと思う。そんな中で、すぐ自分にできることを見つけ実践していた。何か言葉では言い表せないような嬉しさを感じた。

### 【折居夫婦と鍵山さんとの朝食】

その後、学校に戻り私達は、先生や子ども達に別れをつげた。子ども達と米倉さんは柔道部の部活へ、わたしたちは折居夫婦と鍵山さんと共に朝食へ向かった。

テーブルを折居夫婦組と鍵山さん組の二つに分かれ懇談した。私は、鍵山さんのテーブルに座った。テーブルのメンバーはほとんどがカンボジア人だったため、私と鍵山さんの1対1の懇談みたいな形となった。鍵山さんに美術の授業についての話しを中心にお伺いした。私は、カンボジアの子ども達が絵を描くときに、人の真似や模写しかしないことに疑問を抱いていた。例えば、カンボジアのお土産屋には、アンコールワットの絵が沢山売っている。しかし、その絵はアンコールワットを見て一枚一枚描いているのではなく、出来上がった絵を見ながら次の絵を描いているのである。私は「絵は形にはまるのではなく、自由に表現するものである」と考えていた。だからこの考え方に納得がいていなかった。この疑問をそのまま鍵山さんにぶつけてみた。私は、てっきり共感してもらえると思っていた。しかし、鍵山さんは模写しかしないことには納得しつつも「それがカンボジアの習慣なんだから、それを否定してはいけないよ」といわれた。わたしは、カンボジアという地にながら、日本の価値観・自分の価値観にとらわれていたことに気付かされた。この他にも、鍵山さんの養成校での経験をふまえながら、カンボジアにいて感じることや文化の違いなど様々なお話をしていただいた。

一方、折居夫婦のテーブルでは、清掃活動のときに話されていた内容の続きを話されていたという。田中の話によれば、折居さんが言われていたのは、「カンボジアの多くの問題を解決するためには法をしっかりと整えること」ということである。今、私はカンボジアで生活をしているが、法の整備は急務であると感じる。しかし、法の整備とは、ただ法を作ったり改善したりするだけのことではない。その法をしっかりと施行するためには、警察や裁判官など取り締まる機関、それら自体がしっかりと法にのっとり法に従う必要がある。しかし、今のカンボジアにはそれがないのは確かである。

二つのテーブルでカンボジアについて様々な話が行われた。この懇談が私たちメンバーの糧になったことは言うまでもないだろう。





### アンコールワット<sup>かんこう</sup>観光

井上<sup>いのうえ</sup>えりか

カンボジアといたらこれを抜きにしては語れないアンコールワット様<sup>さま</sup>の出番<sup>でばん</sup>でございます。みんな、しっかりカメラの充電<sup>じゆうでん</sup>はしてきたかな？(誰<sup>だれ</sup>かな、カメラの充電器<sup>じゆうでんき</sup>を忘れてインスタントカメラで撮ったのは)テンション<sup>げんざい</sup>激<sup>さんねん</sup>上がり<sup>のぼ</sup>りのアンコールワット。現在、残念<sup>いせき</sup>ながら遺跡<sup>いせき</sup>修復<sup>しゅうふく</sup>中<sup>ちゆう</sup>につき、一番上<sup>いちばんうえ</sup>の部分<sup>ぶぶん</sup>には上<sup>のぼ</sup>りませんが、それでもいいんです。この仲間<sup>なかまたち</sup>達<sup>たち</sup>と素敵<sup>すてき</sup>な時間<sup>じかん</sup>を共有<sup>きょうゆう</sup>できたこと。それが一番<sup>いちばん</sup>の宝<sup>たから</sup>です。

そして、朝日<sup>あさひ</sup>を見るために早起<sup>はやお</sup>きしたHGCHA-JYA<sup>さま</sup>様、お疲れ<sup>つか</sup>様<sup>さま</sup>でした♪





## I K T T 蚕祭り

みやざきあきこ  
宮崎明子

### <活動報告>

アンコールワットへ行った後、私たちはIKTT「蚕祭り」の前夜祭に出席した。IKTTというのは、カンボジアの内戦の中で途絶えかけていた伝統織物の復興を課題に活動を始めた、クメール伝統織物研究所のことである。このお祭りが開催されたのは「伝統の森」というところで、長くてでこぼこな道を車で1時間ほど走り、上下左右に激しく揺られながら会場に到着した。とても自然豊かなところだった。天候はあいにくの雨。しかし、すでに多くの人で会場はにぎわっており、オレンジ系のライトが会場を温かく包み込んでいた。前夜祭が始まる前に、私たちは会場に隣接したテントの下でご飯を食べた。雷と大雨が地面をたたきつけるように降ってきた。開始時間が近づくと、思わず踊りだしたくなるようなテンポの良い曲が流れ出し、マイクを持った司会者が登場し、まずははじめのご挨拶。前夜祭のオープニングを飾るのは、小さな子供たち。ステージの上でリズムに合わせて、思うままに踊っている姿は実にかわいらしかった。2番手は、スタッフさんとボランティアの方。鍋や缶などで作ったドラムセットのようなものとフルート、キーボードであの有名な「カノン」を演奏した。途中、雨が激しさを増し、音に消されて聞こえない箇所があったが、耳をよく澄ますと、素敵なメロディーが聞こえてきた。その次に登場したのは、他のスタディーツアーに参加している日本の学生たち。最近、学校の卒業式でよく歌われている「旅立ちの日に」を、旋律とはもりに分かれて歌った。中には感極まって涙を流している学生もいた。そして、いよいよファッションショーの始まり始まり。まず最初に舞台袖から出てきたのは、渋い色の布を身にまとった2人の男性。とてもよくお似合いでした。2人の登場で勢いがついたところで、次々とモデルたちが出てきて、会場は一気に熱気に包まれた。綺麗な布で身をまとい、音楽に合わせてながら優雅にウォーキング。自信に満ち溢れた表情の女性は、どの人もみな美人で綺麗だった。また、とても輝いて見えた。天候で機材の調子が悪いのか、音楽が途切れることもあったが、手拍子で乗り越えたことによって、会場の気持ちがひとつになったように思う。最後はQueenの名曲「we are the champion」をBGMに、モデルたちがステージ上に勢ぞろい。まもなく前夜祭はフィナーレを迎えた。余談ではあるが、大雨のため道路はぬかるんでおり、帰りは行きよりも大変だった。しかし、車内はおのおのが自分の好きな歌を大声で歌い、いつにも増して賑やかなのでした。終わり。

### <感想>

どこか懐かしくて、ほんわか温かくて、ホッとした気持ちになれる、そんな前夜祭だっ

たと思います。時もゆったりと流れていて、日本で生活しているとなかなか味わうことのできない、貴重な時間を過ごすことができました。また、小さい子供たちが踊っている姿は本当にかわいらしくて、自然と笑みがこぼれてしまいました。織物に関してですが、本当に美しく素晴らしいものだったので、これからもずっと受け継いでいってほしいと思います。機会があれば、また参加したいです。

## IKTT前夜祭

レケナー

IKTTでカイコ祭りがあったので、たくさんのカンボジア人と日本人が参加しました。夕食を一緒に食べた後で、お祭りが始まりました。まず子供たちが発表をしました。まずは、カンボジアの伝統的な踊りです。そして日本人の伝統的な服のファッションショーを見ながら、音楽を楽しみました。日本人の発表が終わったあとは、カンボジア人の伝統的な服の出番です。伝統的な服をはじめ、カンボジアはたくさん伝統があります。服の変遷も様々です。そして女性の服がたくさんあります。例えば、カンボジアの女性がお寺とか、結婚式とか、儀式へ行ったら、色々なスタイルがあり、洋服が年齢を表すことがあります。たとえば、おばあちゃん達の服、若者の服、子ども達の服などです。一方、男性の洋服はあまりそんなことはありません。ファッションショーには楽しい音楽もありました。その時かかっていた歌はカンボジアの歌です。歌われていたのは、シエムリアップなどです。終わったあと、私はあの儀式のおかげで、カンボジアと日本の伝統がわかりました。国は各々が伝統を持つと思っています。たとえば、洋服とか生活などがあります。私はカンボジア人として、カンボジアの伝統文化を守らなければならないと思いました。



9月15日

まつもと おはなし きいて  
るしなの松本さんのお話を聞いて

きむらこういち  
木村光一

僕は今回この活動に参加させてもらう前、トンレサップ湖という湖があることも知らなかった。もちろんトンレサップ湖が水質汚染や、それによる魚の減少、また、湖に住んでいる人々の健康問題など、多くの問題を抱えていることなんか知らなかったし、そこで同じ日本人が問題を解決しようと命をかけて戦っていることなんて知る由もなかった。

今回お話をしてくれた松本さんは、偶然とは思えない、まさに自分の使命に導かれるようにして、現在トンレサップ湖の調査や、孤児院を創設しておられる方であった。

松本さんとのお話はブレインストーミングとあって、質問に対する意見などを一切せず、まず自分たちが松本さんに聞きたいことを順番に言いき、次にその質問で出た疑問に対し、どうしたらその問題を解決できるか、自分が思ったことをこれも順番に言っていくという方法で行われた。一通り解決策が出終わると、最後に松本さんが出た質問に答えてくれた。

例えば、トンレサップ湖には土地を買えない貧しい人々が多く暮らしているのだが、その「住民たちは湖の水質が悪くなっていることや、魚が減っている状況をどう思っているか」という質問に対し、「住民は湖の危機を一番知っている。だが、彼らは自分たちにはどうする事も出来ないことも知っている」とお答えになりました。また、違法漁業の取り締まりについては、違法漁業を取り締まるはずの政府が漁師から多額の賄賂を受け取り、賄賂を出した人は好きなだけ違法な漁業を行っているという現実も教えてくれた。まさに金が物をいう世界である。本来、法は守るためにあるはずなのだが、ここでは「法を破らせるための法」になってしまっているのだ。法を破らせ、弱みを握り、金を奪いとる。こんなことが普通に行われている世界。こんな世界を変えるために学生の僕たちに一体何ができるのだろうか？

最後に松本さんはブレインストーミングで僕たちがそれぞれ挙げていった「私たちにできること」という文字を指差し、「ここには正解がほとんど出ていると思う」と言ってくれた。そこには「現実を知る」「思うだけではなく行動する」「今回自分が感じたことを友人に語る」などが書かれていた。これらを実行するのは本当に難しいことだと思うが、誰かがやるだろうではなく、自分がやる！という気持ちが大切だと思う。自分は今大学で東南アジア研究会に所属しているが、今度の部会で今回の体験を話す機会をいただけたので、一人でも何か感じてもらえるように、全力で語っていきたいと思う。

最後に、今回貴重なお話を聞かせていただいた松本さん、ハートオブゴルドの皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## まつもと ちゅうしょくかい 松本さんとの昼食会

よしだ  
吉田さくら

### 《活動内容・感想》

松本さんとの昼食会では、トンレサップ湖に限らずカンボジアのことについて知りたいことや、疑問に感じていることなどの質問をさせていただいた。

カンボジアは内戦が終わったとはいえ、まだまだ復興の途中であり、今現在、発展の恩恵を受けることのできる人間は限られたごく一部の、しかも富裕層の人間だけなのかと思うととても残念に思った。港の開発や、海外企業の進出が進み、これからカンボジアはますます発展していくだろう。それが国内の経済格差を助長する原因になることなく、全てのカンボジアの人々にとってよいことであるといいと感じた。

カンボジアは目に見える問題と、目には見えない問題が複雑に絡み合っていて、一筋縄では解決できないことがたくさんある。しかし、カンボジアにはまだまだたくさんの可能性があると思う。将来カンボジアが、カンボジアに住む全ての人のため、よい国になるといいと思った。



## 木のぬくもり！ ニューチャイルドケアセンター訪問

よしだ  
吉田さくら

### 《活動内容》

ニューチャイルドケアセンターでは、まず子どもたちになぜ身の回りを清潔に保たないといけないのかという衛生教育を行なった。そしてその実践として孤児院の敷地内、また孤児院付近の清掃活動を行なった。その後、子どもたちと一緒に手洗いをした。それからおやつをいただき、外で簡単なスポーツをした。本来はバレーボールをする予定であったが、子どもたちが思っていたよりも小さかったため急遽変更し、ボールをドリブルしながら2メートルほど先まで行って戻ってくるというものをリレー方式で行なった。しかし雨により途中で中止となった。また、敷地内では職業訓練として建物を建設しており、棟梁の大隅さんからもお話をいただいた。最後には子どもたちから歌のプレゼントをもらった。

### 《感想》

子どもたちは本当にかわかった。こんなに小さいうちから親がおらず、どんなに寂しいだろうかと思った。それでも子どもたちはみんなびっくりするほど元気いっぱい、笑顔に溢れていた。清掃活動もみんな競うように一生懸命ごみを拾ってくれた。こどもはみんな

すなお 素直だなあとと思った。

スポーツについては孤児院に行く前に懸案をあげておくべきであったと思った。子どもの年齢や天候のことをあまり考えていなかったため、急遽その場でスポーツを考えなければならなくなり、しかも突然の雨のため結局中止となってしまった。

松本さん、大隅さんのお話から、カンボジアの人たちに対する支援というものは、援助ではなく、自立のためのきっかけでなければならないと思った。またそのきっかけというのも、その場限りの支援でなく、本当にそこに住むカンボジアの人たちが自立できるまで続けることのできる長期的なものであることが必要だと感じた。



## ニューチャイルドケアセンター

クリタ

わたしはカンボジアの学生と日本の学生とシェムリアップにある孤児院に行きました。私たちは午後3時ぐらいにつきました。孤児院についたとき、子供たちに迎えられて、うちに上がりました。一人ずつ自己紹介をしたあとで、3人の子供たちにカンボジアの伝統的なダンスをしてもらいました。私たちも先生の教えてくれたとおりにしたので、みんなとても喜びました。ダンスがおわったあとで、私たちは子供たちにごみについて説明しました。教えたのは20分ぐらいでした。私たちは子供たちと一緒に30分ごみを拾ったあとで、みんなで手を洗いました。そのとき、私たちはスポーツをしていましたが、雨が降ってきたので、出来なくなりました。私たちはもう一度うちにあがりました。この活動は私にはとても楽しかったです。子供たちにごみについて教えて、日本人の友達にもカンボジアの伝統的なダンスをみせました。私は次の活動にも参加したいです。

9月16日

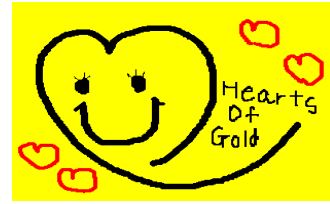
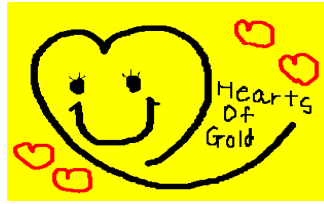
## 観光、お別れ！

宮崎明子

### 〈活動報告〉

最終日は、午前中にオールドマーケットで買い物し、昼食後プノンペン移動、というスケジュールだった。出発までに各自朝食と荷造りを済ませ、いざオールドマーケットへ！！しかし、いつも陽気なチェトラさんが今日ほどことなく大人しいことに気づく。それもそのはず。もうすぐ待望の赤ちゃんが産まれるとのこと。お嫁さんはプノンペンに、チェトラさんはシェムリアップにそれぞれいる。車で約6時間かかるほど離れているのだ。そんな状況にいるチェトラさんを気にしつつ、生徒一同は買い物へ。日本では味わうことができないマーケットの雰囲気存分に楽しみながら、買い物をした。お店の前を歩いていると、声をかけない店員はいないとと言っても過言ではないほど声をかけられた。買い物をする際、discount もしてくれる。日本語プラス英語で必死に値切る・・・そんな買い物の楽しみ方は日本ではなかなかできないだろう。買い物から帰ってきたら、ついに赤ちゃんが産まれたとの報告が！！チェトラさん、本当におめでとうございます！！そうこうしているうちにお昼の時間がきて、一同「the blue pumpkin」というお店へ。いつものカンボジアチックなお食事どころとは雰囲気が異なり、とてもスタイリッシュなお店だった。8メートルはあろう、白くて長いソファの上に全員で座り、最後の昼食を楽しんだ。その後、シェムリアップからプノンペンへいつものVANで移動。シェムリアップ空港から帰るゆかと、もう1日だけシェムリアップに滞在する百合と明子の3人組はここでみんなとお別れした。





## 今回の活動を振り返り

HG アジア地域事務所 所長 柳田 所長より

今年度第2回の『ハート・オブ・ゴールド 青少年大使』(HG CYA/HG JYA) 活動が9月7日から16日まで『衛生と健康』をテーマに行なわれました。

雨季のさなかではありましたが、今回も、多くのカンボジアと日本の若い人たちが参加してくれました。

私が今回の活動について特に感動したことが2項目あります。

第一に、今回の『衛生と健康』と言うテーマがカンボジアの若い人たちから提案されたことです。どちらかと言うと、企画段階では受身だったカンボジアの若い人が自ら、カンボジアの、特に学校での課題を提案してくれたので、私は何とか実行しなくてはと思い、一度は準備不足で流れたものの、スタッフの協力により、日本からの参加者も得られ、実施することができました。

第二に今回、プノンペン近郊の学校で劇や紙芝居で教宣した日常活動での必要な衛生、清掃についての行動をカンボジアの小学生、若い人たちが実行していたことです。活動が終わってすぐに、校庭のゴミを小学生が拾っていました。また、打ち合わせの後にでたゴミを中身を分けて集めているHG CYAの人もいました。

カンボジアの衛生状況は決して良いとは言えず、ゴミの処理も管理されているとは言えません。街の至る所にゴミが捨てられている状況です。

今回の活動は大海の一石かもしれませんが、でも、一人でも家庭や学校で実践する子供、若い人が居れば、きっと時間はかかっても、輪は広がり、きれいで衛生的なカンボジアの街が実現すると思います。

暑いカンボジアで頑張ってくれた日本の若い人たち、仕事や学校の合間に活動に参加してくれたカンボジアの若い人たち、本当にありがとうございました。

これからもカンボジアをより良い社会とするためには現地が何を必要としているか、若い人たちと話し合いながら企画をしていきます。

また、是非参加してください。

## へんしゅうこうき 編集後記

いのうえ  
井上えりか

まさに発展の真っ只中にある。それが現在のカンボジアの状況である。町の至る所に見られる建設ラッシュ。変わり行く風景の行く末を誰が知ろうか。そしてグローバリゼーションの影に見られる、貧しさ。本で読んだこともテレビで見たこともある。だが、それが目の前に現実に起きている時、一体どうしていいのかわからない。今回の活動を通じて、お互いの文化を感じながら、カンボジアの抱える問題の彼ら自身の考え方というものにも触れた。日本人がプノンペンの町並みを見て驚くのはゴミの多さだ。しかし、カンボジア人は思ったほど気にしていない。一緒にご飯を食べに行っても、ゴミをポイポイ捨てる。この活動の最初の頃、一緒に活動してきたカンボジアの学生もそうだった。ゴミの活動をしようとしているのにどうしてわかってくれないのだろうか、と思った。しかし、20年くらいの間に備わった文化がそうも簡単に変わるのなら、国際協力の仕事は必要ない。私達は日本のゴミがないのが当たり前前の環境に育ったので、こんな簡単なことをどうしてしないのだろうかと考え。システムは0から作り上げるものである、日本のそれも実は誰かが苦労して作り上げたものだ。

さて、その文化の違いもなんのその仲良くなってしまうえば言葉の壁までも乗り越えられる。HG スタッフのチェトラさんのあたたかくも厳しい指導により、私達はお互いの言葉をしゃべるのに奮闘した。時折、実は私は簡単な通訳をしないほうがいいのではないのかと思った。そうゆうことをする人が居ると自分で伝える努力をしなくなってしまう。手の先から足の先からばたばたして絵を描いて伝える、そして伝わった時の嬉しさといったらなんとも言えない。あるメンバーが帰国後にクメール語をはじめると言った。みんなとっても嬉しい。そして今回カンボジア留学中にこのツアーに参加させてもらった日本人メンバーが3人いる。HGCYAメンバーとの交流はツアー後も続き、チェトラさんのお子さんの1ヶ月記念にもみんなで伺った。東京でもHGJYAメンバーの会合が開かれるらしい。こういった輪がいつまでも繋がることって本当に素敵なことだと思う。

そしてこのツアーを最初から最後までひっぱってってくれたHG インターンの田中百合さんには本当に感謝を述べたい。カンボジアのメンバーとの対話を重視し、日本人メンバーの意見も引き出してくれた。彼女のおかげでツアーの密度がぐんと増したとメンバー誰もが思っている。そして、訪問させていただいた皆様、私達を支えてくださったハートオブゴールドの皆様、このような貴重な機会を与えていただきまして本当にありがとうございます。カンボジアのことをこれだけ見られる機会は長く滞在していても、それほどないものです。社会に出て、ここで経験したことをしっかりと胸に留め、考えて行きたいとおもいます。



HGCYA-JYA2008 衛生編 (2008 年度 HG CYA-JYA 活動報告書)

2009 年 3 月 10 日 / 第 1 版 発行

発行 : ハート・オブ・ゴールド出版部

編集責任者 : 田中百合 (山形大学 4 年)

お問い合わせ : [yuririn352000@yahoo.co.jp](mailto:yuririn352000@yahoo.co.jp)

※本書の全部または一部の複写・複製をされる場合はご一報ください。

編集担当者——井上えりか 溝渕弘子

翻訳者——井上えりか

Copyright : ハート・オブ・ゴールド出版部

Printed in Japan